

平成 16 年度入学者標準対象科目

区 分		総合経済学科（夜間主コース）	
		授 業 科 目 名	ページ
全 学 教 育 科 目	共 通 基 礎 科 目	教 養 セ ミ ナ ー	7
	外 国 語 科 目	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	8
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	9
		総 合 英 語 I	13
		総 合 英 語 II	14
	情 報 処 理 科 目	情 報 処 理 入 門	16
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学	17
	人 文 ・ 社 会 科 学 科 目	人 間 と 文 化	18
		言 語 と 芸 術	19
		社 会 と 歴 史	20
法 と 政 治		21	
経 済 と 経 営		22	
日 本 国 憲 法		23	
人 間 科 学 科 目	生 体 の 構 造	24	
	生 命 の 科 学	25	
自 然 科 学 科 目	物 理 科 学	26	
	生 物 の 科 学	27	
総 合 科 学 科 目	東 ア ジ ア 社 会 と 日 本	28	
専 門 教 育 科 目	学 部 導 入 科 目	現 代 経 済 概 論	30
		現 代 経 営 概 論	32

平成 15 年度入学者標準対象科目

区 分		総合経済学科（夜間主コース）		
		授 業 科 目 名	ページ	標準履修年次
全 学 教 育 科 目	共 通 基 礎 科 目	教 養 セ ミ ナ ー	7	1
	外 国 語 科 目	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	8	1
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	9	1
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン III	11	2
		総 合 英 語 I	13	1
		総 合 英 語 II	14	1
		総 合 英 語 III	15	2
	情 報 処 理 科 目	情 報 処 理 入 門	16	1
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学	17	1
	人 文 ・ 社 会 科 学 科 目	人 間 と 文 化	18	1
		言 語 と 芸 術	19	1
		社 会 と 歴 史	20	1
		法 と 政 治	21	1
経 済 と 経 営		22	1	
日 本 国 憲 法		23	1	
人 間 科 学 科 目	生 体 の 構 造	24	1	
	生 命 の 科 学	25	1	
自 然 科 学 科 目	物 理 科 学	26	1	
	生 物 の 科 学	27	1	
総 合 科 学 科 目	東 ア ジ ア 社 会 と 日 本	28	1	
専 門 教 育 科 目	学 部 導 入 科 目	現 代 経 済 概 論	30	1
		現 代 経 営 概 論	32	1
	学 部 基 礎 科 目	経 済 学	34	2
		経 営 学	36	2
		簿 記	38	2
	コ ー ス 基 礎 科 目	財 政 学	40	2
		日 本 経 済 史	42	2
		民 法	44	2
		国 際 関 係 論	46	2
		経 営 管 理 論	48	2
原 価 計 算 論	50	2		

※ 教職関連科目については、6 ページに掲げてある。

平成 14 年度入学者標準対象科目

区 分		総合経済学科 (夜間主コース)		
		授 業 科 目 名	ページ	標準履修年次
全 学 教 育 科 目	共 通 基 礎 科 目	教 養 セ ミ ナ ー	7	1
	外 国 語 科 目	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	8	1
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	9	1
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン III	11	2
		英 語 合 合 英 語 I	13	1
		英 語 合 合 英 語 II	14	1
		英 語 合 合 英 語 III	15	2
	情 報 処 理 科 目	情 報 処 理 入 門	16	1
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学	17	1
	人 文 ・ 社 会 科 学 科 目	人 間 と 文 化 術 史	18	1
		言 語 と 芸 歴 史	19	1
		社 会 と 政 経 史 治 営 法	20	1
		法 経 済 と 国 経 憲 法	21	1
日 本 の 憲 法 造 学		22	1	
生 体 の 構 造 学		23	1	
人 間 科 学 科 目	生 体 の 構 造 学	24	1	
自 然 科 学 科 目	物 理 科 学	25	1	
	生 物 の 科 学	26	1	
総 合 科 学 科 目	東 ア ジ ア 社 会 と 日 本	27	1	
専 門 教 育 科 目	学 部 導 入 科 目	現 代 経 済 概 論	30	1
		現 代 経 営 概 論	32	1
	学 部 基 礎 科 目	経 済 学	34	2
		経 営 学	36	2
		簿 記 学	38	2
		学 史	40	2
	コ ー ス 基 礎 科 目	財 本 政 経 済 学 史	42	2
		日 民 国 際 関 係 法 論	44	2
		経 営 管 理 算 術 論	46	2
		原 価 計 算 論	48	2
		経 済 学 論	50	2
		簿 記 学 論	52	2
	応 用 科 目	国 際 経 済 学	54	3・4
開 発 経 済 学		56	3・4	
公 共 勤 務 学		58	3・4	
労 働 経 済 学		60	3・4	
産 地 構 造 政 策		62	3・4	
地 租 財 税		64	3・4	
ア ジ ア 経 済 論		66	3・4	
知 的 財 産 法 論		68	3・4	
金 融 シ ス テ ム 論		70	3・4	
英 融 社 会 話 I		72	3・4	
英 融 社 会 話 II		74	3・4	
中 国 語 会 話 I		76	3・4	
中 国 語 会 話 II		78	3・4	
言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (英 語)		80	3・4	
国 際 経 済 学 論		82	3・4	
日 本 理 会 業 計 論		84	3・4	
管 理 情 報 処 理 論		86	3・4	
経 営 マ ケ テ ィ ン グ 論	88	3・4		
中 小 企 業 組 織 論	90	3・4		
経 営 組 織 論	92	3・4		

- ① 教職関連科目については、6ページに掲げてある。
- ② ●は開講予定であるが、シラバスは後日公示するものである。
- ③ 網掛けの科目は、臨時開設科目である。

平成10～13年度入学者標準対象科目

区 分		総合経済学科（夜間主コース）		
		授 業 科 目 名	ページ	標準履修年次
全 学 教 育 科 目	共 通 基 礎 科 目	教 養 セ ミ ナ ー	7	1
	外 国 語 科 目	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	8	1
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	9	1
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン III	11	2
		英 語 合 合 英 語 I	13	1
		英 語 合 合 英 語 II	14	1
	英 語 合 合 英 語 III	15	2	
	情 報 処 理 科 目	情 報 科 学 概 論	16	1
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学	17	1
	人 文 ・ 社 会 科 学 科 目	哲 学 A / B	18	1
		芸 術 A / B	19	1
		歴 史 学 A / B	20	1
		法 学 A / B	21	1
経 営 学 A / B		22	1	
憲 法 A / B		23	1	
人 間 科 学 科 目	生 体 の 構 造 学	24	1	
	生 命 の 科 学	25	1	
自 然 科 学 科 目	物 理 の 科 学	26	1	
	物 理 の 科 学	27	1	
総 合 科 学 科 目	経 済 学 A / B	28	1	
専 門 教 育 科 目	学 部 導 入 科 目	現 代 経 済 概 論	30	1
		現 代 経 済 概 論	32	1
	学 部 基 礎 科 目	経 済 学 学 記	34	2
		簿 記 学 学 記	36	2
		簿 記 学 学 記	38	2
	コ ー ス 基 礎 科 目	財 本 政 経 済 学 史	40	2
		日 本 政 経 済 学 史	42	2
		民 国 際 関 係 理 論	44	2
		国 際 関 係 理 論	46	2
		原 価 管 計 算 論	48	2
	応 用 科 目	国 際 経 済 学 学 論	50	2
		国 際 経 済 学 学 論	52	3・4
		開 発 経 済 学 学 論	54	3・4
公 共 経 済 学 学 論		56	3・4	
労 働 経 済 学 学 論		58	3・4	
産 業 構 造 論		60	3・4	
地 租 財 税 論		62	3・4	
租 税 財 税 論		64	3・4	
ア ジ ア 経 済 論		66	3・4	
知 的 財 産 法 論		68	3・4	
金 融 シ ス テ ム 論		70	3・4	
英 融 社 会 話 I		72	3・4	
英 融 社 会 話 II		74	3・4	
中 国 語 会 話 I		76	3・4	
中 国 語 会 話 II		78	3・4	
言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (英 語)	80	3・4		
国 際 経 営 論	82	3・4		
日 本 企 業 論	84	3・4		
管 理 会 計 論	86	3・4		
経 営 情 報 処 理	88	3・4		
マ ー ケ テ ィ ン グ	90	3・4		
中 小 企 業 論	●	3・4		
経 営 組 織 論	92	3・4		

- ① 教職関連科目については、6ページに掲げてある。
- ② ●は開講予定であるが、シラバスは後日公示するものである。
- ③ 網掛けの科目は、臨時開設科目である。

平成10～13年度入学者に対する授業科目の読替

授業科目名	単位数	旧課程授業科目名	単位数
教養セミナー	2	入門科目(入門ゼミ)	2
情報処理入門	2	情報科学概論	2
人間と文化	2	哲学 A	2
人間と文化	2	哲学 B	2
言語と芸術	2	芸術 A	2
言語と芸術	2	芸術 B	2
社会と歴史	2	歴史学 A	2
社会と歴史	2	歴史学 B	2
法と政治	2	法学 A	2
法と政治	2	法学 B	2
経済と経営	2	経営学 A	2
日本国憲法	2	憲法 A	2
日本国憲法	2	憲法 B	2
生体の構造	2	人間学 A	2
生命の科学	2	生体機能学 A	2
物理科学	2	物理学 A	2
生物科学	2	生物化学 A	2
東アジア社会と日本	2	経済学 A	2
東アジア社会と日本	2	経済学 B	2

平成10年度入学者に対する授業科目の読替

授業科目名	単位数	旧課程授業科目名	単位数
総合英語Ⅲ	1	英語コミュニケーションⅢ	1

教職課程時間割

区分	授 業 科 目	ページ
特 別 指 定 科 目 (教 職)	国 際 教 育 演 習	96
	教 育 職 業 論	98
	商 業 教 科 教 育 法	100
	職 業 指 導	102
	教 育 方 法 ・ 技 術 論	104
	教 育 原 理 論	●
	教 育 心 理	●
	教 育 行 政 ・ 制 度 論	●
	特 別 活 動 論	●
	進 路 指 導	●
	教 育 相 談	●
	教育実地研究 I (事前・事後指導)	106
	教 育 実 地 研 究 II	-

※ ●は開講予定であるが、シラバスは後日公示するものである。

区分：共通基礎科目

授業科目名	教養セミナー				学期	曜日	校時
英語名	Freshman Seminar						
担当 教官名	今田正 村山洋 井田洋 森永春 乃	単位数	2単位	必修 選択	必修	前期	月曜日 VII校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教官および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。原則として1名の教官が前期を通じて担当する（2名の教官が前半、後半を担当する場合もある）。</p>							
テキスト、教材等							
各教官の指示による。							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
経済学部 夜間主コース	授業開始時に説明する。						
授業計画							
<p>1. 原則として1名の教官が前期を通じて担当、指導する（2名の教官が前半、後半を担当、指導する場合もある）</p> <p>2. 単位は15週（30時間）で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教官が決める。</p> <p>3. 教養セミナーのテーマは、大学教育へのオリエンテーション機能を持つこと、学生と教官および学生相互のコミュニケーションづくりの場でもあることなどを考慮し、学生との話し合いを重視する。</p>							

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	英語コミュニケーション I					学期	曜 日	校 時
英 語 名	English Communication I							
担 当 教 官 名	丸山 真純	単位数	1 単位	必修 選択	必 修	前期 後期	火曜日 火曜日	Ⅶ校時 Ⅶ校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>コミュニケーションのためのリスニング力（そして、スピーキング）の涵養をねらいとし、(1) 英語独特の音声のつながりや変化のパターンの学習；(2) シャドーイング演習；(3) リスニングのための英文法・読解演習（読んで分からないものは聞いても分からないので）を中心に授業を行う（詳しい内容は授業計画を参照してください）。</p> <p>さまざまな音声教材を用い、繰り返し演習を行うことによって、授業を進めていく。通常教室以外に、可能であれば、MS・メディア対応教室にて授業を行う。</p> <p>英語の教授はもちろん、英語学習法についても教授しようと考えている。</p> <p>語学という性格上、受講生の積極的な参加が必要である。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
テキストは用いない予定。必要に応じて、資料を配付します。								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	出席 課題提出 試験	} から総合的に評価します。 (初回に詳しく説明します)			経済学部 東南ア研棟 3階 321号室 電話 820-6376 内線 376			
授 業 計 画								
<p>第 1 回 Introduction（講義概要紹介）</p> <p>第 2 回 リスニング演習（1）：Tears in heaven</p> <p>第 3 回 文法・読解演習（1）：歌詞の理解</p> <p>第 4 回 if の一般的用法と if による仮定法（過去・過去完了）</p> <p>第 5 回 リスニング演習（2）：音声変化のパターン</p> <p>第 6 回 音声変化 消える音に慣れる；つながる音に慣れる；変化する音に慣れる</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回 シャドーイング演習（1）</p> <p>第 9 回 英語学習の有効な方法であるシャドーイングを紹介し、実践してみる</p> <p>第 11 回 文法・読解演習（2）：歌の背景の理解</p> <p>第 12 回 リスニング演習（3）：Stand by me</p> <p>第 13 回 文法・読解演習（3）：歌詞の理解</p> <p>第 14 回 復習</p> <p>第 15 回 予備日</p> <p>○オフィスアワー：火 18:00～19:30 OR by appointment</p>								

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ					学期	曜日	校時
英語名	English Communication Ⅱ							
担当 教官名	白水 桂子	単位数	1 単位	必修 選択	必 修	前期	火曜日	Ⅶ校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>センテンス・パターンを通して、文法と口語英語を確認していきます。テキストは「文法確認」、「リスニング」、「作文」、「対話」という構成になっていて、基本的構文を復習しながら口語表現の学習やリスニング、英作文の練習をします。</p> <p>英語の基本的構文と簡単な口語表現の習得を目指します。</p>								
テキスト、教材等								
<p>Easy Everyday English Through Sentence Patterns (構文から学ぶやさしい日常英語) (2004) 南雲堂 適宜、他の教材も使用します。</p>								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	定期試験 (50%)、中間試験 (20%)、授業への参加状況 (30%) によって評価します。					経済学部東南アジア研究所 2階		
授 業 計 画								
<p>初回はオリエンテーション、及びテキストの内容に少し入ります。英和辞典は毎回持参して下さい。以下にテキストの構成を順に挙げます。</p> <p>第2文型、第1文型、第3文型、have、「比較」を表す構文 未来時制、過去時制、進行形、現在完了形、疑問詞、受動態 「命令」を表す構文、「依頼」を表す構文、「許可」を表す構文 「提案」を表す構文、「勧誘」を表す構文、「義務・不必要」を表す構文 第4文型、第5文型、形式主語 it、等位接続詞、従位接続詞</p> <p>テキストの英文は基本的には会話を扱っています。ある程度まとまった長さの英文を読みたいという希望があれば、適宜、他の教材も使用します。</p> <p>オフィスアワー（質問受付時間）：火曜日 16:30～17:30 教官研究室 上記以外の日時を希望する場合は事前にお知らせください。</p>								

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ					学期	曜日	校時
英語名	English Communication II							
担当 教官名	吉村 宗司	単位数	1 単位	必修 選択	必 修	後期	火曜日	Ⅶ校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤にもつことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。</p> <p>本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語）—必要最低限の英語（米語）—を徹底的に学びながら、その音声的特徴について解説し、『音法』に則したトレーニングを実践することによって、聴解力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>(1) 英語リスニング—聞き取るための入門講座（ハンドアウト教材）</p> <p>(2) American（ハンドアウト教材）</p> <p>(3) アメリカの生活と文化（VTR 教材）</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	定期試験、出席状況、参加意欲（トレーニングの状況や受講態度）等の総合判定によって評価を行なう。					非常勤講師 所属：長崎女子短期大学 電話：826-5344		
授 業 計 画								
<p>第 1 回 オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか）</p> <p>第 2 回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』 分析結果の報告と対策法について</p> <p>第 3 回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説／『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）</p> <p>第 4 回 [t] [d] [g] の脱落／ [t] [d] のラ行音化／連結しない場合の [l] / [h] の脱落</p> <p>第 5 回 『同化』を聞き取るパターン①（半母音 [j] に絡む音変化）</p> <p>第 6 回 『同化』を聞き取るパターン②（[n] の後続音への影響）</p> <p>第 7 回 [r] の発音／『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン</p> <p>第 8 回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン／『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン</p> <p>第 9 回 On an Airplane（機内での会話①）</p> <p>第 10 回 On an Airplane（機内での会話②）</p> <p>第 11 回 At an Airport（入国審査・税関での会話①）</p> <p>第 12 回 At an Airport（入国審査・税関での会話②）／VTR 視聴（空港と飛行機の旅）</p> <p>第 13 回 Taking a Taxi（タクシー利用時の会話）／VTR 視聴（タクシーの利用術）</p> <p>第 14 回 Taking Public Transportation（地下鉄・バス利用時の会話）</p> <p>第 15 回 At a Hotel（ホテルでの会話）／洋楽を聞き取る／総括</p>								
<p>※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。</p>								

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	英語コミュニケーションⅢ					学期	曜日	校時
英語名	English Communication Ⅲ							
担当 教官名	山崎 有介	単位数	1 単位	必修 選択	必 修	前期	木曜日	VI校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>英語を使って様々な知識を吸収しつつ、基礎的な文法・発音・アクセントを確認しながら、国際関係、国際経済、国際文化を理解する際の時事英語に用いられる用語や表現を学習します。また、更なる英文の読解と語彙の強化、リスニングや発音の向上も目指します。</p>								
テキスト、教材等								
Foundation: Four English Skills & Wisdom Akiyoshi Suzuki 編著, 金星堂								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	授業参加(発言)状況(20%), 出席(10%), 小試験(20%), 定期試験(50%)					非常勤講師		
授 業 計 画								
<p>各 CHAPTER の内容は次の通りです。 Contents I The Media & Mode 1. Body Image 2. Aggression in Children II Language 1. Words, Noises, Signs 2. Rhythm Makes Your English Intelligible III Film 1. Looking at Film 2. The Academy Awards IV The Consumer Society 1. The Consumer Society 2. No Way, Absolutely Not V Environment 1. The World as Family 2. A Fight for Tribal Lands VI International Relations 1. Orientalism 2. 'K urieetibu Konfurukuto' in Japanese-English VII The Self & Mind 1. Mirror, Image, Symbol 2. A Little Language Goes A Wrong Way VIII Biology 1. Race and the Human Genome 2. Clone Dog IX Gender & Family 1. 'Woman' as Gender 2. Fathers Need to Pay More Attention to Their Children X Politics & Law 1. State Apparatuses 2. "Safe, Strong, & Free" XI Economy 1. World-System 2. BTO in the Automotive Industry XII Gerontology 1. Walking May Stimulate Elders' Brains 2. Post-retirement Classes</p> <p>与えられた課題や予習をきちんとできるかどうかは英語力の向上に結びつくのはいままでもないことですが、敢えて強調しておきます。 ※質問は授業のあとか yusuke@nwjc.ac.jp で受け付けます。</p>								

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	英語コミュニケーションⅢ					学期	曜日	校時
英語名	English Communication Ⅲ							
担当 教官名	吉村 宗司	単位数	1 単位	必修 選択	必 修	後期	木曜日	Ⅵ校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤にもつことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。</p> <p>本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語）—必要最低限の英語（米語）—を徹底的に学びながら、その音声的特徴について解説し、『音法』に則したトレーニングを実践することによって、聴解力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>(1) 英語リスニング—聞き取るための入門講座（ハンドアウト教材）</p> <p>(2) American（ハンドアウト教材）</p> <p>(3) アメリカの生活と文化（VTR 教材）</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	定期試験、出席状況、参加意欲（トレーニングの状況や受講態度）等の総合判定によって評価を行なう。					非常勤講師 所属：長崎女子短期大学 電話：826-5344		
授 業 計 画								
<p>第 1 回 オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか）</p> <p>第 2 回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』 分析結果の報告と対策法について</p> <p>第 3 回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説／『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）</p> <p>第 4 回 [t] [d] [g] の脱落／ [t] [d] のラ行音化／連結しない場合の [l] / [h] の脱落</p> <p>第 5 回 『同化』を聞き取るパターン①（半母音 [j] に絡む音変化）</p> <p>第 6 回 『同化』を聞き取るパターン②（[n] の後続音への影響）</p> <p>第 7 回 [r] の発音／『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン</p> <p>第 8 回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン／『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン</p> <p>第 9 回 On an Airplane（機内での会話①）</p> <p>第 10 回 On an Airplane（機内での会話②）</p> <p>第 11 回 At an Airport（入国審査・税関での会話①）</p> <p>第 12 回 At an Airport（入国審査・税関での会話②）／ VTR 視聴（空港と飛行機の旅）</p> <p>第 13 回 Taking a Taxi（タクシー利用時の会話）／ VTR 視聴（タクシーの利用術）</p> <p>第 14 回 Taking Public Transportation（地下鉄・バス利用時の会話）</p> <p>第 15 回 At a Hotel（ホテルでの会話）／洋楽を聞き取る／総括</p>								
<p>※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。</p>								

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	総合英語 I					学期	曜日	校時
英語名	Comprehension English I							
担当 教官名	前川 智子	単位数	1 単位	必修 選択	必修	前期	水曜日	Ⅶ校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>NHK 衛星放送ニュースのビデオ教材を利用し、英語の総合的なコミュニケーション力の向上を目指す。特に、英語を聴いて、読んで内容を把握する力をつける。日本の話題が題材となっているので理解しやすく、英語も聞き易いと思う。ビデオを1, 2回視聴して解く練習問題や本文の音読などを授業中に行い、付属のCDを何度も聞いて、或いは本文を読んで解く練習問題は毎回の宿題とする。必ず宿題をして授業に臨むこと。質問があれば授業中に遠慮なくして欲しい。</p>								
テキスト、教材等								
<p>テキスト：News Watch 3。</p>								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	<p>授業への参加状況、課題提出、小テスト（40%） 期末試験（60%）</p>					非常勤講師		
授業計画								
<p>（語学学習には自主的な継続学習が不可欠である。予習・復習を必ず行い、毎日英語に触れるように努力して欲しい。授業を効果的に行うために毎週課題を出し、それをやってきていることを前提にして授業を進めていくので怠らないように。課題に基づいた小テストを毎回行う予定である。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書販売、オリエンテーション、Unit 2：拉致被害者の思い 2. Unit 2、Unit 3：携帯－機能拡大 3. Unit 3、Unit 4：新型肺炎の影響 4. Unit 4、Unit 6：喫煙大国日本 5. Unit 6、Unit 7：日本の「食」の再発見 6. Unit 7、Unit 9：酔わないビール 7. Unit 9、Unit10：今度は本物 8. Unit10、Unit11：現代人と眠り 9. Unit11、Unit13：文字放送－裏方の苦勞 10. Unit13、Unit14：電動車椅子サッカー 11. Unit14、Unit15：成功するか自転車タクシー 12. Unit15、Unit16：竹のパワー 13. Unit16、Unit18：不登校問題 14. Unit18、復習 15. 期末試験 								

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	総合英語Ⅱ					学期	曜日	校時
英語名	Comprehensive English II							
担当 教官名	山崎 有介	単位数	1 単位	必修 選択	必 修	後期	水曜日	Ⅶ校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>英語の基礎的な文法・発音・アクセントを確認しながら，メディア英語に触れ、国内情勢、国際関係、国際文化を理解する際の用語や表現を学習します。単に時事英語ではなく、最先端の流行や国際的なトピックに触れることによって異文化理解に更なる関心を深めてもらいたい。同時に、英文の読解と語彙の強化、リスニングや発音の向上も目指したい。</p>								
テキスト、教材等								
English in the Media 2004 Takehiko Ohsawa 編著，金星堂								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	授業参加（発言）状況（20%）、出席（10%）、 小試験（20%）、定期試験（50%）					非常勤講師		
授 業 計 画								
<p>以下の内容について、毎回1つのCHAPTERを扱っていきます。 Warm-up ⇒ Vocabulary ⇒ Summary Completion ⇒ T/F Questions ⇒ About the Story</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Coffee or tea? 2) Beauty maven's elegance inspires millions 3) Getting the words RIGHT 4) Face it, British English is changing 5) Amazon.com narrows second-quarter loss 6) The dogs and don'ts of Japanese etiquette 7) Report on blonds won't wash 8) Architect sketches way to success 9) A tale of two cities – Roppongi faces a towering turning point 10) Japanese women look to sky for jobs 11) Where workers are all work, little play 12) Another curve for Japan baseball 13) Supermodel steps ahead in high fashion 14) Democrats should embrace Spanish-language TV 15) Students get an 'A' for piracy <p>この他、発音矯正やリスニング強化のための教材を随時用意するつもりです。 与えられた課題や予習をきちんとできるかどうかは英語力の向上に結びつくのはいままでのことですが、敢えて強調しておきます。</p> <p>* 何か質問がある場合は、授業のあとか、yusuke@nwjc.ac.jp で受け付けます。</p>								

区分：外国語科目（英語）

授業科目名	総合英語Ⅲ					学期	曜日	校時
英語名	Comprehensive English Ⅲ							
担当 教官名	白木 桂子	単位数	1 単位	必修 選択	必修	前期	木曜日	Ⅶ校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>英文によるニュースを題材として、基礎的語彙、文法を学習します。また、ニュースの一部のディクテーションも行います。</p> <p>時事的な英文に親しみながら読解力の向上を目指します。</p>								
テキスト、教材等								
Fundamentals of Media English 2004/2005（メディア英語の基礎） Yumi Press								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	定期試験(50%)、中間試験(20%)、授業への参加状況(30%)によって評価します。					経済学部東南アジア研究所 2階		
授業計画								
<p>初回はオリエンテーション、及びテキストの内容に少し入ります。授業には必ず英和辞典を持参してください。</p> <p>毎回、何名か指名してニュースの和訳、説明などをしてもらいます。</p> <p>以下にテキストで扱われているニュースの分野を順に挙げます。</p> <p style="margin-left: 20px;">UNIT 1 情報・通信 UNIT 2 科学・技術 UNIT 3 国内政治 UNIT 4 国内経済 UNIT 5 医療 UNIT 6 犯罪・事件 UNIT 7 地球環境 UNIT 8 国際政治 UNIT 9 国際経済 UNIT 10 家庭 UNIT 11 健康 UNIT 12 人権 UNIT 13 天気予報 UNIT 14 スポーツ UNIT 15 文化</p> <p>取り扱う分野の順番はその都度、変更することがあります。毎回、次にする UNIT を指示します。</p> <p>オフィスアワー（質問受付時間）：火曜日 16:30～17:30 教官研究室 上記以外の日時を希望する場合は事前にお知らせ下さい。</p>								

区分：情報処理科目

授業科目名	情報処理入門					学期	曜日	校時
英語名	Introduction to Computer Sciences							
担当 教官名	鈴木 斉	単位数	2単位	必修 選択	選 択	前期	木曜日	Ⅶ校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>現代は高度情報化社会へと突入し、我々の身のまわりには多種多様な情報が氾濫している。これら氾濫している情報を手早く適切に利用する手段としてコンピュータを利用することがある。現在のコンピュータはまだまだ人に対して優しくない。そこで、本講義ではコンピュータに使われるのではなく使いこなすためには相手を良く知ること目的としている。本講義はコンピュータを理解するために必要となる技術的な知識の基礎的な部分を演習を交えながら解説する講義形式で進める。</p>								
テキスト、教材等								
テキストは使用しません。参考書は適宜紹介します。								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	出席、レポート、定期試験の結果による					経済学部 本館 3F 321号室 Tel. 820-6372 (直通)		
授 業 計 画								
<p>第 1 回 コンピュータ全般への導入</p> <p>第 2 回 コンピュータ利用方法基礎 1 (起動、ログオン、日本語入力、終了方法等)</p> <p>第 3 回 コンピュータ利用方法基礎 2 (文書入力、電子メール等)</p> <p>第 4 回 コンピュータ上での情報の表現方法 1 (数値、文字)</p> <p>第 5 回 コンピュータ上での情報の表現方法 2 (画像、データ構造)</p> <p>第 6 回 ハードウェア・ソフトウェアの仕組み</p> <p>第 7 回 プログラミング入門 1</p> <p>第 8 回 プログラミング入門 2</p> <p>第 9 回 文書処理 1 (Word、HTML、PDF 等文書フォーマットの説明)</p> <p>第 10 回 文書処理 2 (文書作成)</p> <p>第 11 回 データ処理 1 (データの集計、表示)</p> <p>第 12 回 データ処理 2 (データの加工)</p> <p>第 13 回 コンピュータネットワークの安全な利用方法</p> <p>第 14 回 まとめ</p> <p>なお、受講者の進度によって内容を変更する場合があります。 オフィスアワーについて、木曜 16:30～17:30 を設定していますが、皆さんの都合の良い時間や メール sigh@net.nagasaki-u.ac.jp でも受け付けています。</p>								

区分：健康・スポーツ科学科目

授業科目名	健康・スポーツ科学					学期	曜日	校時
英語名	Science of Health and sports							
担当 教官名	管原 正志	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	前期	金曜日	VI校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>近年、急速に発展しつつあるスポーツ・健康科学領域からの様々な知見に言及し、我々人間の健康や運動行動に関する身体的、生理的特性、またその社会的側面などについて、学問的な理解を深めることと実生活で役立つ知識の獲得を目的とする。授業形態は講義であるが、適時、身近なデータを用いた計算、分析などの演習も行い理解を深める。</p>								
テキスト、教材等								
<p>テキストは使用しないが、必要に応じて資料などを配布する。</p>								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	全授業への出席を原則とし、毎回のレポートによって総合評価する。					健康・スポーツ科学科目 専門委員会委員長		
授 業 計 画								
<p>1 回：4月16日 管原正志；スポーツ活動と熱障害 2 回：4月23日 田井村明博；運動とエネルギー、運動と筋肉 3 回：4月30日 畑孝幸；スポーツと健康の関係の考察 4 回：5月 7日 中垣内真樹；運動と健康 5 回：5月14日 西澤昭；リラクゼーションの方法 6 回：5月21日 山内正毅；運動学習の心理学 7 回：5月28日 中山雅雄；トレーニング方法論 8 回：6月 4日 衛藤正雄；スポーツ医学 9 回：6月11日 青柳 潔；成人病とライフスタイル1 10 回：6月18日 浦田秀子；成人病とライフスタイル2 11 回：6月25日 太田保之；心の健康 12 回：7月 2日 水野明夫；歯と健康 13 回：7月 9日 平潟洋一；AIDS と感染症 14 回：7月16日 未 定；救急法</p> <p>○オフィスアワー（質問受付時間）：水曜日 13:00～17:00 教官研究室</p>								

区分：人文・社会科学科目

授業科目名	人間と文化（哲学のススム）					学期	曜日	校時
英語名	Humanity and Culture (Elementary Philosophy)							
担当 教官名	永嶋 哲也	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	後期	水曜日	VI校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>哲学は普通「何の役にも立たない学問だ」と言われている。確かに、何か別のものへの実用的な応用がないという点では「役に立たない」という言い方は正しいと思う。しかし哲学的な思考態度は、哲学自体が何の応用もないだけに、逆にあらゆるものの役に立つとも言える。この講義では、そのような哲学的思考態度（正しく理解し、自分自身で考えること）を身につけるための「哲学入門」を目指す。</p>								
テキスト、教材等								
教科書は特に指定はしない。必要であればプリント等の資料を適宜用意する。 参考文献は講義中紹介する。								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	平常点、および学期末試験・・・学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらう。その内容でもって講義に対する積極性という平常点を判断する。学期末試験は記述形式で二問。一つは授業内容の要約で、もう一つは自らの意見を展開してもらう。					非常勤講師		
授 業 計 画								
<p>例えば「在る」とか「知る」「正しい」「こころ」などの言葉の意味とはどういうものだろうか？言いかえれば、そういうもの／ことというのは、日常にありふれていて、なにげなくて使っているけれども、いざ「それは何？」「どういうもの／こと？」と訊ねられるとその答えに困ってしまう。そういう身近だけでも考えてみれば謎な事柄こそ、哲学の主要問題・中心問題になるのだと思う。</p> <p>だからこの講義では哲学入門のために、“ダレダレがこう考えた” “ダレダレがこう言った” などいうのではなくて、事柄中心に、つまり上で書いたような主要問題を中心に取り上げる。</p> <p>今年度は、つぎのようなテーマを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語・・・言葉は何を意味しているのか？ ・行為・・・何かを「した」と言えるのはどんなときか？ ・こころ・・・何かを感じ考え思ったりしているのは、わたしの中の何か？ <p>各テーマについて、なぜその問題が問われるのか、どのような仕方で問われるのかを説明し、そしてその問題に対して様々な人たちがどのような解決案を提出したかを紹介したい（それでも、そのような問題の側面を扱うだけになるだろうけれども）。それに対して受講生の諸君がどのように考えるか、授業中のレポートという形で書いてもらおうと考えている。</p> <p>なお、授業スケジュールは以下のとおり予定している。</p> <p>01 回目 イントロダクション（概論） 02 回目 （承前） 03 回目 行為 行為の分析 04 回目 行為の前提：意志 05 回目 行為の前提：自由 06 回目 意味 意味の分析 07 回目 普通名の意味 08 回目 固有名の意味 09 回目 （承前） 10 回目 こころ こころの存在 11 回目 （承前） 12 回目 考えるものとして 13 回目 人工知能 14 回目 感じるものとして 15 回目 試験</p> <p>オフィスアワー（質問受付時間）：特に定めない。来校時にはいつでも非常勤講師室にて対応する。</p>								

区分：人文・社会科学科目

授業科目名	言語と芸術（彫刻の世界）					学期	曜日	校時
英語名	Language and Art(Sculpture World)							
担当 教官名	佐藤 敬助	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	後期	金曜日	VI校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>日常の生活空間は3次元の中にあるはずであるのに、その生活に対する意識の大半は、2次元の要因を元にして営まれているといっても過言でないように思われる。そこで、この授業においては、立体（彫刻）の世界を通してその現実の日常空間を改めて見つめながら、その素晴らしさをより享受できるようにすることを目的として、生活の中の豊かさを考えてみたい。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
必要に応じて資料を配付する。								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	レポートや出席、提出作品等を含めて、総合的に評価したい。					教育学部 美術技術棟 1F 彫刻研究室 内線 2349		
授 業 計 画								
<p>いろいろな彫刻作品の鑑賞や期間中の彫刻の小品制作を通して、以下の内容を中心に立体に対する基礎的な観察力・認識力を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 彫刻における特性について 2. 視覚に関する問題について 3. 触覚に関する問題について 4. 課題小作品の制作を通して彫刻の世界に関する検討考察 <p>○オフィスアワー： 授業後、およびメールで質問を受け付ける。 メールアドレスは、keisuke@net.nagasaki-u.ac.jp</p>								

区分：人文・社会科学科目

授業科目名	社会と歴史（東洋社会経済史）					学期	曜日	校時
英語名	Society and History (the Social and Economic History of Asia)							
担当 教官名	松本 睦樹	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	前期	火曜日	VI校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>一般に大学での歴史学と言えば、日本史や西洋史、あるいは中国史であった。本講義ではそうではなく、インド史を取り上げる。その際、西洋を基準とする時代区分論を用いることの適否、西洋との接触、カーストなどの問題を中心に据える。この講義によって、地域が異なれば歴史像が根本的に異なるという事実を改めて学んでいただきたい。</p> <p>なお、この講義では、まず教官が板書を活用した口述の講義を 60 分間行い、次に受講者がその内容を 30 分間でレポートにまとめ、最後に提出する、という独自の方法がとられている。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
テキストは使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	講義時間中に合わせて 3 回以上の小テストを実施する。その成績および毎回提出のレポートなどを総合的に勘案して成績を算定する。なお、定期試験は実施しない。					経済学部本館 5 階 506 教官研究室 電話 820 - 6358 (直通)		
授 業 計 画								
<p>まず、第 1 回目の講義において、講義の方法とルール、評定方法などについて説明する（したがって、この第 1 回目の講義には必ず出席のこと）。その後は、いくつかのテーマについて論じた後、具体的にインド史のいくつかの局面を講じる。スケジュールとしては、下記のように予定している。また、講義時間を利用してあわせて 3 ないし 4 回の小テスト（自筆ノート等の参照は可）を予告なく実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーリング ② 東洋とは ③ 日本での「東洋史学」 ④ 歴史学と時代区分論 ⑤ インドの地理と民族 ⑥ カーストとは、 ⑦ 古代アーリア社会 ⑧ 仏陀の時代 ⑨ 3 つの統一王朝 ⑩ 「中世」の設定 ⑪ ムスリムによる支配 ⑫ ムガルの性格 ⑬ ヨーロッパ人の見たインド ⑭ ヨーロッパ人のインド進出 ⑮ 予備 <p>オフィスアワーについては、とくに定めず、個別に対応する。まず講義の前後に直接、あるいは電話やメールで予約のこと。お互いの都合の良い時間に調整したうえで、教官研究室で質問や相談等を受ける。また、場合によってはメールで直接に回答する。メールアドレスは、mutuki@net.nagasaki-u.ac.jp</p>								

区分：人文・社会科学科目

授業科目名	法と政治（企業活動と法）					学期	曜日	校時
英語名	Law and Politics (Companies and Law)							
担当 教官名	岡本 芳太郎	単位数	2単位	必修 選択	選 択	後期	金曜日	Ⅶ校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>社会生活においては、あまり意識することはないとしても、個人のレベルでも、組織のレベルでも、さまざまな法が関係している身近なものであることを理解することで、法に興味をもってもらうと共に、企業の経済活動に関係する法律の概要を把握する。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>授業計画に沿ったプリント資料を配布する。 参考文献としては、ビジネス実務法務検定のテキスト等のほか、講義中に紹介する。</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	定期試験及び出席状況により評価する。					経済学部本館6階607号室 電話 095-820-6329 内線 329		
授 業 計 画								
<p>第 1 回 法とは何か 第 2 回 憲法と三権分立 第 3 回 社会生活と法（刑事） 第 4 回 家族生活と法 第 5 回 契約の自由 第 6 回 損害賠償 第 7 回 会社の設立と組織 第 8 回 会社の役員の責任 第 9 回 会社の計算・合併等 第 10 回 企業の倒産 第 11 回 私的独占と不当な取引制限 第 12 回 特許と営業秘密 第 13 回 ブランド・著作権・意匠権 第 14 回 国際取引・国際訴訟</p> <p>○オフィスアワー：研究室在室時はいつでも受けつける。</p>								

区分：人文・社会科学科目

授業科目名	経済と経営（経営入門）					学期	曜 日	校 時
英 語 名	Economics and Business (Introduction to Management)							
担 当 教 官 名	三原 泰熙	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	前期	金曜日	Ⅶ校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>①企業とは何か、「経営」とは何か、②企業は競争に勝つためにどのようなことをしているか、③会社の中で人はどのように仕事をしているか。このようなことがわかるために、経営の基本概念・用語を理解し説明できるようにすること、その上でその概念・用語を組み合わせ、比較したりしながら具体的な企業の活動を理解し説明できるようになることをねらいとする。できるだけ具体例を示しながら講義します。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>参考書 日本経済新聞社編『やさしい経営学』日本経済新聞社、2002年。 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』第3版、日本経済新聞社、2003年。</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	<p>授業への参加状況（レポート、アンケート、小テスト等）と最終試験によって総合的に判定する。それぞれのウェイトは、30%、70%を予定している。</p>					<p>経済学部本館6階601号室 電話 095 - 820 - 6332 内線 332</p>		
授 業 計 画								
<p>第 1 回 企業とは何か：企業と社会、生活、環境 第 2 回 経営・マネジメントと経営学。 第 3 回 会社を創る：株式会社の特徴 第 4 回 どのように競争するか（1）差別化 第 5 回 どのように競争するか（2）ビジネス・システム 第 6 回 どんな製品・サービスを提供するか（1）：多角化 第 7 回 どんな製品・サービスを提供するか（2）：選択と集中 第 8 回 どんな製品・サービスを提供するか（3）：ポートフォリオ・マネジメント、M&Aと提携 第 9 回 なぜ人は組織をつくり、参加するか：個人と組織 第 10 回 どのような組織を作るか：組織構造の設計 第 11 回 どのように仕事をするか：計画とコントロール 第 12 回 どのように人を雇うか：終身雇用とパートタイム、アルバイト、派遣労働 第 13 回 人をどのように動かすか：人は金を払えば懸命に働くか？年功賃金と成果主義賃金 第 14 回 どのように人は能力を伸ばし、偉くなっていくか：昇進は年功序列か？ 第 15 回 予備日</p> <p>○ オフィスアワー（質問受付時間）：金曜日 18：30～19：30、教官研究室 及び授業終了後 30 分 教室又は教官研究室</p>								

区分：人文・社会科学科目

授業科目名	日本国憲法（基本的人権と民主政治の仕組み）				学期	曜日	校時
英語名	The Constitution in Japan (Fundamental Human Rights and Frames of Democratic Government)						
担当教官名	田中 謙	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	後期	月曜日 VI校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>みなさんはすでに中学・高校で「日本国憲法」についての簡単なイメージをもっていることと思いますが、大学で学ぶ「日本国憲法」は社会科の延長ではありません。批判精神を養う学問です。したがって、憲法の条文などを『覚える』のではなく、さまざまな憲法上の問題に対して「何が問題なのか?」「どうすべきなのか?」など、『考える』ことを心掛けてください。私も、教壇の上から「教える」という姿勢ではなく、「一緒に考えてみよう」という姿勢で講義したいと考えています。</p> <p>内容としては、「基本的人権」と「民主政治のしくみ（統治）」について、毎回身近な問題を取り上げ、さまざまな憲法上の問題を提起します。</p> <p>質問等については、A4用紙に書いた質問を随時講義終了後に受け付けることを原則としたいと考えています。質問事項を吟味・検討したうえで、学生全員に伝えた方がよいと判断すれば講義の中で、その必要はないと判断すれば講義終了後にも質問した学生に対して、それぞれ返答したいと考えています。</p>							
テキスト、教材等							
<p>テキストは用いず、授業計画にそったプリント資料等を必要に応じて配布します。</p>							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
経済学部 夜間主コース	基本的に、定期試験のみで評価します。				経済学部本館3階328号室 TEL 095 - 820 - 6408		
授 業 計 画							
<p>第1回 ガイダンス [21世紀憲法学へのキーワード]</p> <p>第2回 パーマをかけたら退学か? [髪型の自由と校則：自己決定権①]</p> <p>第3回 他人のタバコの煙は吸いたくない! [喫煙権と嫌煙権：自己決定権②]</p> <p>第4回 男女平等は男女無差別か? [別姓・再婚の自由：法の下での平等]</p> <p>第5回 「君が代」は思想の押し付けか? [思想・良心の自由]</p> <p>第6回 マニュアル本の大流行! [表現の自由]</p> <p>第7回 銭湯の楽しみ!? [経済的自由]</p> <p>第8回 生活保護費は貯金できるのか? [生存権]</p> <p>第9回 少年法の刑罰化・厳罰化で犯罪は減るのか? [人身の自由と適正手続き]</p> <p>第10回 国際平和のために日本は何ができる? [平和主義①]</p> <p>第11回 国際平和のために日本は何ができる? [平和主義②]</p> <p>第12回 両院は車の両輪 [国会]</p> <p>第13回 黒衣の天使? [裁判所]</p> <p>第14回 首相の選び方 [内閣]</p> <p>第15回 予備日</p> <p>○オフィスアワー：講義終了後</p>							

区分：人間科学科目

授業科目名	生体の構造（人類学入門）					学期	曜日	校時
英語名	Structural and Molecular Physiology (Introduction to Physical Anthropology)							
担当 教官名	六反田 篤 加藤 克知 真鍋 義孝	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	後期	木曜日	VI校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>広義の人類学は人類の身体形質や文化などを対象とする総合的な科学であるが、本講義では人類の生物学的側面を明らかにする形質（自然）人類学の理解を目的とする。</p> <p>人類は約 500 万年前にアフリカで誕生して、世界各地に適応放散していき、現在では地球上のほとんどの地域に分布するに至った。この人類進化の過程において身体形質にみられた時代的変化や地域的変異について、種々の観点からアプローチした結果を紹介する。</p> <p>人類進化は霊長類進化の一部であり、ひいては脊椎動物の進化の一部を構成している。人類進化を理解するには、脊椎動物の進化の全体観を把握しておく必要がある。本講義では、特定の器官として歯をとりあげ、脊椎動物における歯の進化の流れを全体的に追ってゆくことによって、進化の様相の把握やその進化の要因についての考察を行う。</p> <p>焦点を世界から日本に絞ると、日本列島における集団の形成過程、すなわち日本人の起源に関する問題は、日本の形質人類学におけるメインテーマである。この問題に関して、初期の学説から最新の学説までの変遷について紹介する。</p> <p>地域や時代によっては、生身の肉体に人為的操作を加える「身体変工」が風習・奇習として存在する。それらはヒトの誕生と共に現れ、彼らの生活や文化の一部を形成してきた。本講義では、この「身体変工」の種類と方法を紹介し、さらにはそれらの意味や文化的背景について考察する。一方、死体に人為的操作を加えて一種の永久死体をつくる、いわゆる「ミイラ」づくりについても科学的に考察したい。</p> <p>講義の内容によっては、担当教官によって明らかにされた最新の知見を盛り込んで、わかりやすく紹介する。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>教科書は用いないが、授業の内容によってスライドを提示したり、プリント資料を配布したりする。参考文献は必要に応じて、適宜紹介する。また研究資料やデータ採取の理解に必要な場合は、人骨標本や歯型標本の観察を行う。</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	出席状況、受講態度（議論への積極的参加）、小試験および定期試験等を考慮して評価する。					歯学部口腔解剖学第1講座 研究棟6階 電話 849 - 7627 医学部保健学科 3階 電話 849 - 7964		
授 業 計 画								
<p>講義は以下のような内容について行う予定である。</p> <p>人類学とは 人類進化概説 猿人から新人（解剖学的現代人）まで 人類の形成・アジア人の誕生 日本人の起源に関する諸説 風俗や習慣として生体への人為的操作を加える「身体変工」の種類と方法 死体に人為的操作を加えて一種の永久死体をつくる「ミイラ」づくりの科学的考察 脊椎動物における歯の進化 世界全体からみた現代人の歯の形態の地域的変異 歯の形態から見た日本人・台湾原住民の起源</p> <p>○オフィスアワー（質問受付時間） 質問等は講義中または講義終了後に講義室にて受け付ける。その他、各教官の研究室においても随時受け付けるが、予め電話、メール等で問い合わせることが望ましい。メールアドレスは 六反田篤 roku@net.nagasaki-u.ac.jp 加藤克知 k-katou@net.nagasaki-u.ac.jp 真鍋義孝 manabe@net.nagasaki-u.ac.jp</p>								

区分：人間科学科目

授業科目名	生命の科学（体を守るしくみ）					学期	曜日	校時
英語名	Life Sciences “Defense against diseases”							
担当 教官名	由井克之 他	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	前期	木曜日	VI校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>私たちは、細菌・ウイルス・寄生虫などの病原体と接しながら生活している。また、自分の体の中から癌が発生することもある。このような環境の中で通常健康な生活ができるのは、体を守る仕組みが備わっているからである。中でも重要な働きをしているのは免疫系である。一方、免疫系は諸刃の剣とも呼ばれ、生体に危害を及ぼす場合もある。</p> <p>免疫系の基本的な仕組みを理解した上で、感染から体を守る仕組み、また免疫系の負の側面である自己免疫病、アレルギー、移植の拒絶などについて概略を理解できるようにする。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>教科書は特に指定せず、プリントやスライド等で講義を行う。 参考図書：多田富雄「免疫の意味論」青土社、1993、 小安重夫「免疫学はおもしろい」羊土社、1997</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	授業毎の課題レポート。授業への参加状況も考慮する。					医学部基礎棟 7 階 免疫機能制御学分野 電話 849-7072		
授 業 計 画								
<p>第 1 回（4月15日）：生体防御の仕組み：はしかに二度かからないわけ（由井） 第 2 回（4月22日）：抗体：体を守る分子誘導ミサイル（由井） 第 3 回（5月 6 日）：MHC：臓器移植の拒絶反応がおこる仕組み（由井） 第 4 回（5月13日）：リンパ球の発生：リンパ球の成熟と教育（由井） 第 5 回（5月20日）：エフェクター機構：免疫系の武器と戦略（由井） 第 6 回（5月27日）：自己免疫疾患：自分を攻撃する免疫（本間） 第 7 回（6月 3 日）：免疫不全：免疫システムが壊れると（本間） 第 8 回（6月10日）：コレラ：口から侵入する敵への対応（中込） 第 9 回（6月17日）：麻疹：全身感染症のパラダイム（中込） 第10回（6月24日）：インフルエンザ：局所感染がなぜ全身症状に現れるか？（中込） 第11回（7月 1 日）：HIV/AIDS：宿主の免疫系を破壊するウイルス（中込） 第12回（7月 8 日）：アレルギー：過剰な免疫反応はなぜおきるか？（本間） 第13回（7月15日）：腫瘍免疫：自分の体内を監視する免疫（本間） 第14回（7月22日）：ワクチン：ワクチンの歴史と期待される新療法（本間）</p> <p>オフィスアワー等 質問等は、授業時間中及び後に教室内で対応する。</p>								

区分：自然科学科目

授業科目名	物理科学（飛行の力学）					学期	曜日	校時
英語名	Physical Science (Aero-dynamics)							
担当 教官名	林 秀千人	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	前期	水曜日	VI校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>私たちの身のまわりには、飛行に関するものはたくさんある。飛行機からボールまで、一見するとまったく異なるように思われる。飛行の仕組み「なぜ、飛ぶのか」また、気球や飛行船のように浮かぶとはどこが違うのか、さらに、うまく飛行するには何が必要なのかを自ら考えることができる。</p> <p>空気の力学（流体力学）と運動の原理が密接に関係していることを理解する。</p>								
テキスト、教材等								
<p>教科書は用いず、授業計画に沿って資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。</p> <p>また、演習時には、工作をすることがある。その都度、数十円から数百円の材料を用意してもらおう。また、刃物を使うことがあるので、けがをしないように注意すること。</p>								
対象学生	成績評価の方法					教官研究室		
経済学部 夜間主コース	演習および宿題(20%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)、授業への積極的参加(20%)にて評価を行う。					工学部 1号館4階MA403号室 電話 819-2516 Email: hidechto@net.nagasaki-u.ac.jp		
授 業 計 画								
<p>回数 内容</p> <p>1. 講義概要の説明 これからの授業の概要を説明し、本科目のねらいを的確につかんでもらう。</p> <p>2-3. 揚力と抵抗 飛行機には翼がある。その原理（揚力）を理解する。翼と凧が、揚力と抵抗の違いであることを理解する。また、翼の形によって、揚力がどう変わるかを調べる。演習</p> <p>4. 飛行機の制御 飛行機がうまく飛ぶには、重力と揚力のバランスが必要である。両者の関係を理解する。また、力のバランスとベクトルを理解する。演習</p> <p>5. 中間テスト 飛行の原理について、理解の程度を実習を交えてテストする。</p> <p>6. 循環と揚力 ボールは翼がないけれども、飛行機と同じように揚力が働いて変化球を作っている。そこには循環と呼ばれる原理が関係していることを理解する。演習</p> <p>7-8 物体の回転と制御 回転する物体は、姿勢を保つ作用がある。これを理解し、どのような利用法があるのかを考える。演習</p> <p>9-10. 飛行の安定 回転する物体の飛行を考える。飛行の安定と揚力、抵抗の関係を理解する。演習</p> <p>11. 中間テスト 物体の安定した飛行について、理解の程度を実習を交えてテストする。</p> <p>12-13. 揚力と浮力 揚力によって飛行機が飛ぶことと、浮力によって気球が浮くことの違いを理解する。</p> <p>14. まとめ 船が浮いたり、飛行機が飛んだり、何も支えがないのにできるのは流体のおかげ。 うまく利用するには、その制御が必要であることを考える。</p> <p>○オフィスアワー（質問受付時間）：月・火曜日 8:30～8:50 教官研究室 hidechto@net.nagasaki-u.ac.jp へ問い合わせを。</p>								

区分：総合科学科目

授業科目名	東アジア社会と日本 ～ 共生への道					学期	曜日	校時
英語名	East Asia and Japan – in search for common Prosperity							
オーガナイザー名	井手 啓二	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	後期	火曜日	VI校時
授 業 担 当 教 官								
井手 啓二、田口 信夫、政岡 豊、J.Gunn、郷野 博								
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>東アジア諸国の発展は、21 世紀初頭の世界の焦点であり、日本がそれとどうかかわっていくかは、今日の重大かつポレミカルな課題となっている。5 人の担当者がそれぞれの専門からこの新しい問題にアプローチを試みる。すぐれて問題提起的講義と考えていただきたい。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
教科書は用いず、各担当教官がプリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
経済学部 夜間主コース	定期試験による。出席状況を考慮する。					経済学部（直）820 - 6322		
授 業 計 画								
<p>第 1 回 日本は東アジア社会とどうむきあうかー諸見解の検討 (井手)</p> <p>第 2 回 東アジアの経済発展と海外直接投資 (田口)</p> <p>第 3 回 海外直接投資と産業空洞化問題 (田口)</p> <p>第 4 回 アジア通貨金融危機と日本の役割 (田口)</p> <p>第 5 回 アジア開発銀行の活動（組織と活動、新戦略） (政岡)</p> <p>第 6 回 貧困削減戦略（課題、戦略、行動計画） (政岡)</p> <p>第 7 回 戦後日中関係と中国経済の発展 (井手)</p> <p>第 8 回 日本企業の中国進出と日中貿易 (井手)</p> <p>第 9 回 戦後日韓関係のあゆみ (郷野)</p> <p>第 10 回 韓国社会の現状と今後 (郷野)</p> <p>第 11 回 韓国経済の現状と今後 (郷野)</p> <p>第 12 回 “Fault-liners” in Indonesia : The Megawati Presidency on Trial (J.Gunn)</p> <p>第 13 回 International Peace Keeping : Lessons from East Timor (J.Gunn)</p> <p>第 14 回 Revolution in Laos : a 30 Years Re ections (J.Gunn)</p> <p>○オフィスアワー：各担当者にアポイントメントをとること</p>								

授業科目名 (英語名)	現代経済概論 (Introduction to Economics)		担当教官名	高倉 泰夫			
単位数	2単位	学期	前期	曜日・校時	月曜日 VI校時	教室	新101教室
授業のねらい	<p>資本制経済の歴史を把握する。そして、現在の豊かな社会をもたらした経済成長について、その要因を説明する。また、とくに日本の1950年代後半から1973年にいたる高度成長の経過とその要因を概観する。その時代は、西欧やアメリカでも高成長の時代であったが、その共通な要因を考える。そして、現在の金融の世界が企業や諸個人に大きな影響を及ぼす時代の特色について述べる。</p> <p>以上のように、資本制経済の歴史の理解に立った上で、現在の自分がある資本制経済の日本の中での自分の位置を客観的に見る眼を養って欲しいと考えている。</p>						
授業内容と方法	<p>テキストと配布資料を使いながら、板書でそれらのつながりを示していく。予習復習は不可欠である。また、ノートもあとで読み返して話の筋道が自分で分かるように書いて行くこと。板書をカメラで撮ったようなノートは、よいノートのとり方ではない。</p> <p>質問をすることは、自分の理解のためだけでなく、受講者全員の理解を深めることにもなので恥ずかしがらずにすること。また、少なくとも時間中に理解するように集中すること。</p>						
履修条件等	毎日の新聞に目を通すこと。とにかく本を読むこと。						
テキスト、参考書等	<p>・八木紅一郎・宇仁宏幸『資本主義のしくみ』ナツメ社、2003年。 * 資料を毎回配布するので、それと対照しながら読むこと。それを前提にした講義を行う。</p> <p>[参考図書] 佐和隆光『日本の「構造改革」』岩波書店 [新書]、2004年。</p>						
成績評価の方法	出席回数（最低でも2/3以上）、小テスト（あるいはレポート）および期末試験の成績による。どれか一つでも欠けた場合には、合格点にはならない。						
オフィスアワー	午後5時から6時までで、研究室に在室の時。						
その他メッセージ	休むと分らなくなるので、欠席は不得策である。						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 資本制経済 200 年の歩み。産業革命。 |
| 第 2 回 | 経済学とはどのようなものであるのか？どのようにして生まれてきたのか？ |
| 第 3 回 | 生産性の上昇・技術革新。アダム・スミス。 |
| 第 4 回 | 生活水準の上昇は何によってもたらされたのか？国民所得（あるいは GDP）とは何か？付加価値。 |
| 第 5 回 | 経済成長とは何か？ |
| 第 6 回 | 投資・消費そして利潤・賃金。投資需要の重要性。資本とは何か？ |
| 第 7 回 | 19 世紀の資本制経済。 |
| 第 8 回 | 20 世紀前半の資本制経済 |
| 第 9 回 | 第 2 次世界大戦後の先進諸国の資本経済（1）－ 1960 年代～ 1970 年代－ |
| 第 10 回 | ” （2）－ 1970 年代～ 1980 年代－ |
| 第 11 回 | 第 2 次世界大戦後の日本経済（1）－敗戦から高度成長期－ |
| 第 12 回 | ” （2）－高度成長の終りから 1989 年のバブルの崩壊まで－ |
| 第 13 回 | 1990 年代からの日本経済・ヨーロッパ経済・アメリカ経済。 |
| 第 14 回 | 金融主導型の資本制経済とグローバリゼーション、そして日本経済。 |
| 第 15 回 | 資本制経済と環境問題。無限の経済成長は可能か？ |

授業科目名 (英語名)	現代経営概論 (Introduction to business administration)		担当教官名	笠原俊彦			
単位数	2単位	学期	後期	曜日・校時	月曜日 VII校時	教室	新101教室
授業のねらい	「経営学」の講義の前段階として、企業活動についていくつかの主要問題を取りあげ、現代社会において企業がどのような意味をもっているかを理解させる。						
授業内容と方法	受講者に質問し、その後で説明し、さらに受講者からの質問に回答するというやり方を取る。						
履修条件等	新聞、TVニュース等にできるだけ接すること。						
テキスト、参考書等	<p>テキスト：笠原俊彦『企業の営利と倫理－M. ヴェーバー研究』税務経理協会、2003年。</p> <p>参考書：藻利重隆『経営学の基礎（新訂版）』森山書店、1973年</p> <p>藻利重隆『経営管理総論（第二新訂版）』千倉書房、1971年</p>						
成績評価の方法	期末試験を中心とし、講義期間中のレポートを加味する。						
オフィスアワー	講義の前の時間						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第1回	はじめに：「経営」という言葉						
第2回	経営「学」とは						
第3回	企業は何を目的としているのか						
第4回	企業目的の歴史を考える						
第5回	近代資本主義というもの						
第6回	資本主義の「精神」とは－その例示－						
第7回	資本主義の「精神」とは－その特質－						
第8回	「天職」という考え方						
第9回	その起源－カトリシズム－						
第10回	その起源－カルヴィニシズムの予定説－						
第11回	その起源－カルヴィニシズムの天職観－						
第12回	宗教的精神としての資本主義の精神						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|-------------|
| 第 13 回 | 資本主義の精神の変化 |
| 第 14 回 | 経済社会の現在 |
| 第 15 回 | おわりに：まとめと試験 |

授業科目名 (英語名)	経 済 学 (Economics)			担当教官名	村 田 省 三・島 田 章		
単 位 数	4単位	学期	前 期	曜日・校時	水曜日 VI校時 水曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授 業 の ね ら い	ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的内容を理解する。						
授 業 内 容 と 方 法	<p>テキストを中心に、板書で解説する。</p> <p>多少の数値計算をふくむ。</p> <p>ミクロ経済学（1限目）、マクロ経済学（2限目）</p> <p>ミクロ経済学は、市場メカニズムあるいは価格メカニズムの有効性の分析が中心的な内容である。</p> <p>マクロ経済学は、有効需要の原理を仮定したもとの国内所得の決定が中心的な内容である。</p>						
履 修 条 件 等							
テキスト、参考書等	<p>是枝、福澤、村田『ミクロエコノミックス』九州大学出版会</p> <p>福岡正夫『ゼミナール経済学入門第3版』日本経済新聞社</p>						
成績評価の方法	中間試験、期末試験の成績による。						
オフィスアワー	授業終了後または授業開始前 20 分程度（村田・島田）						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	オリエンテーション（以下、奇数回目はミクロ経済学）						
第 2 回	オリエンテーション（以下、偶数回目はマクロ経済学）						
第 3 回	市場メカニズム（Ⅰ）						
第 4 回	マクロ経済学とはなにか						
第 5 回	市場メカニズム（Ⅱ）						
第 6 回	国民所得の概念						
第 7 回	消費者動向の理論（Ⅰ）						
第 8 回	乗数分析（Ⅰ）						
第 9 回	消費者行動の理論（Ⅱ）						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 10 回	乗数分析 (Ⅱ)
第 11 回	生産者行動の理論
第 12 回	財政政策
第 13 回	中間テスト
第 14 回	中間テスト
第 15 回	市場均衡の安定性 (Ⅰ)
第 16 回	投資関数、貨幣供給および貨幣需要関数
第 17 回	市場均衡の安定性 (Ⅱ)
第 18 回	I S - L M 分析 (Ⅰ)
第 19 回	市場の失敗 (Ⅰ)
第 20 回	I S - L M 分析 (Ⅱ)
第 21 回	市場の失敗 (Ⅱ)
第 22 回	I S - L M 分析における財政・金融政策 (Ⅰ)
第 23 回	市場の失敗 (Ⅲ)
第 24 回	I S - L M 分析における財政・金融政策 (Ⅱ)
第 25 回	予備
第 26 回	予備
第 27 回	予備
第 28 回	予備
第 29 回	期末試験
第 30 回	期末試験

授業科目名 (英語名)	経営学 (Management Studies)			担当教官名	矢島邦昭		
単位数	4単位	学期	前期	曜日・校時	月曜日 VI校時 月曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授業のねらい	「経営学のすすめ」の視点から包括的に研究領域を示すとともに経営学の基礎的有識を提供し、各専門科目を位置づけ概観することで、今後の勉強の動機付けに資することを目的としている。						
授業内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> 内容は下記の計画に示す通りである。状況に応じて変更する。 テキストを中心に口述、板書及びOHPを用いた講義を行い必要に応じて資料を配布する。 						
履修条件等	特になし						
テキスト、参考書等	テキスト：井原久光著『テキスト経営学（増補版）』ミネルヴァ書房 参考書：片岡信之編著『要説経営学』文真堂 中村常次郎、高柳暁編『経営学（第3版）』有斐閣双書						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 試験を中心に、出席（小テストで代えることもある）を考慮して総合的に判断して評価する。 課題レポートは加点要因とします。 						
オフィスアワー	特に時間を定めない。時間の許す限り対応する。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	オリエンテーション（進め方、経営学とは？位置づけ、隣接科学）						
第 2 回	現代企業（特徴、類型、所有と経営の分離等）						
第 3 回	同上						
第 4 回	経営管理の一般理論						
第 5 回	生産管理論						
第 6 回	人事・労務管理論（モチベーション理論、リーダーシップ論等）						
第 7 回	財務管理論						
第 8 回	経営情報システム						
第 9 回	同上						
第 10 回	組織管理（特徴、形態）						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 11 回	組織管理 (特徴、形態)
第 12 回	経営戦略論 (環境適応、革新、多角化)
第 13 回	マーケティング理論 (マーケティング戦略の枠組み)
第 14 回	同上 (ゴーイングコンサートとマーケティング)
第 15 回	意思決定論の展開
第 16 回	中間的まとめ
第 17 回	経営学説史的展開 (アメリカ経営学を中心に)
第 18 回	同上 (管理論の展開等)
第 19 回	同上 (人間関係論など)
第 20 回	同上 (組織論の展開、行動科学と統合理論等)
第 21 回	日本的経営 (特徴、長所と短所、成功と変質)
第 22 回	同上
第 23 回	同上
第 24 回	文化、環境、グローバル化と企業 (社会、環境と企業)
第 25 回	同上
第 26 回	受託研究機関の受託から見た企業の課題
第 27 回	予備
第 28 回	予備
第 29 回	予備
第 30 回	予備

授業科目名 (英語名)	簿 記 (Book Keeping)			担当教官名	上 野 清 貴		
単 位 数	4単位	学期	前 期	曜日・校時	火曜日 VI校時 火曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授 業 の ね ら い	複式簿記の基本概念を理解し、商品売買業を中心として財務諸表作成までの一連の手続きを習得することを目的とする。具体的には8欄清算表を用いて財務諸表を作成できるようになることを目指す。						
授 業 内 容 と 方 法	テキストを中心に、簿記の一連の手続きを説明する。具体的には、テキスト中の例題を中心として説明するが、練習問題もできるだけ解いていくようにする。						
履 修 条 件 等	なし。						
テキスト、参考書等	加古宣士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級』税務経理協会						
成績評価の方法	定期試験（中間試験および最終試験）、小テストおよび出席状況により評価する。						
オフィスアワー	授業日						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	複式簿記の意義						
第 2 回	貸借対照表と損益計算書 (1)						
第 3 回	貸借対照表と損益計算書 (2)						
第 4 回	複式簿記の手続一巡 (1) - 取引と勘定						
第 5 回	複式簿記の手続一巡 (2) - 仕訳と転記 (1)						
第 6 回	複式簿記の手続一巡 (3) - 仕訳と転記 (2)						
第 7 回	複式簿記の手続一巡 (4) - 決算手続 (1)						
第 8 回	複式簿記の手続一巡 (5) - 決算手続 (2)						
第 9 回	複式簿記の手続一巡 (6) - 決算手続 (3)						
第 10 回	中間試験						
第 11 回	現金・預金の記帳 (1) - 現金勘定・当座預金口座						
第 12 回	現金・預金の記帳 (2) - 現金過不足・小口現金						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 13 回	商品売買取引の簿記処理 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・商品勘定 ・三分法 ・仕入・売上帳 ・商品有高帳 ・売掛金・買掛金 ・売掛金元帳・買掛金元帳
第 14 回	商品売買取引の簿記処理 (2)	
第 15 回	商品売買取引の簿記処理 (3)	
第 16 回	商品売買取引の簿記処理 (4)	
第 17 回	商品の期末棚卸と評価 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・払出単価・残存単価 ・棚卸減耗損 ・低価法
第 18 回	商品の期末棚卸と評価 (2)	
第 19 回	有価証券	
第 20 回	債権・債務の記帳 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・手形債権・手形債務 ・その他の債権・債務 ・貸倒れ
第 21 回	債権・債務の記帳 (2)	
第 22 回	債権・債務の記帳 (3)	
第 23 回	債権・債務の記帳 (4)	
第 24 回	固定資産の記帳	
第 25 回	資本金と引出金	
第 26 回	決算整理 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・費用・収益の見越・繰延 ・決算整理 ・試算表 ・8 欄精算表
第 27 回	決算整理 (2)	
第 28 回	決算整理 (3)	
第 29 回	財務諸表の作成	
第 30 回	予備日	

授業科目名 (英語名)	財 政 学 (Economics of Public Sector)			担当教官名	赤 石 孝 次		
単 位 数	4単位	学期	後 期	曜日・校時	水曜日 VI校時 水曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授 業 の ね ら い	<p>政府の経済活動である財政の仕組みやそれが人々の行動に及ぼす影響を分析するとともに、財政の望ましい姿を検討する。</p> <p>この講義は、国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、ならびに経済学検定試験の財政学関連問題が解けるようなレベルに到達することを目標としている。</p>						
授 業 内 容 と 方 法	<p>下記のテキスト・参考書を中心に、適宜資料で補完しながら講義を行う。また、班単位で問題を解くことで、理解の定着をはかる。(班別討論の実施は、受講者数に依存する。)</p>						
履 修 条 件 等	<p>ミクロ経済学、マクロ経済学の知識を有することが望ましい。</p>						
テキスト、参考書等	<p>(テキスト) 小塩隆士 (2002) 『コア・テキスト財政学』 (新世社)。 (予定) (参考書) 『平成 16 年度版・図説日本の財政』 (東洋経済新報社)。</p>						
成 績 評 価 の 方 法	<p>講義中行う 2 回の小テスト (50 点満点) のうち点数が良い方を採用し、期末テスト (50 点満点) と総合して 100 満点で評価する。</p> <p>また、班別討論 (班を組めない場合は個人の発表) の結果も上記点数に加味する。</p>						
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>月曜日 (事前にメールで連絡してください。アドレスは第 1 回目の講義で提示します。)</p>						
そ の 他 メ ッ セ ー ジ	<p>冬休み中に補講 (1 月 6・7 日を予定) を行うので、受講を考えている諸君は注意すること。</p>						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	イントロダクション、班 (1 班 6 名程度) 構成。						
第 2 回	政府の定義と財政の機能。						
第 3 回	財政制度。						
第 4 回	財政収支。						
第 5 回	同上。						
第 6 回	公共財と政府支出の構造。						
第 7 回	同上。						
第 8 回	同上。						
第 9 回	同上。						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 10 回	課税の経済分析と租税構造。
第 11 回	同上。
第 12 回	同上。
第 13 回	同上。
第 14 回	同上。
第 15 回	小テスト。
第 16 回	所得再配分。
第 17 回	公債。
第 18 回	同上。
第 19 回	同上。
第 20 回	同上。
第 21 回	社会保障。
第 22 回	同上。
第 23 回	同上。
第 24 回	財務政策の理論。
第 25 回	同上。
第 26 回	同上。
第 27 回	地方財政の理論と実際。
第 28 回	同上。
第 29 回	小テスト。
第 30 回	期末テスト。

授業科目名 (英語名)	日本経済史 (Japanese Economic History)			担当教官名	柴多一雄		
単位数	4単位	学期	前期	曜日・校時	金曜日 VI校時 金曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授業のねらい	さまざまな経済活動、経済現象に対する、歴史的な理解を深めることを目的とする。						
授業内容と方法	古代から近・現代に至る日本経済史の流れを、日本における経済発展の特性に注目しながら考察するが、特に資本主義の成立とその展開の過程を中心に検討していく。 テキストは用いず、配布資料と板書を中心に、講義形式で行う。						
履修条件等	特になし						
テキスト、参考書等	テキストは使用しない。 参考図書：石井寛治著『日本経済史』(東京大学出版会) 三和良一著『概説日本経済史 近現代』(東京大学出版会)						
成績評価の方法	定期試験、小テスト、出席により総合的に評価する。						
オフィスアワー	研究室にいる限り、いつでも質問等に答えるので訪問されたい。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	はじめに						
第 2 回	原始経済の発展						
第 3 回	律令制下の経済構造						
第 4 回	荘園公領制下の経済構造						
第 5 回	大名領国制下の経済構造						
第 6 回	まとめと小テスト						
第 7 回	太閤検地と石高制						
第 8 回	鎖国と幕藩制国家の成立						
第 9 回	対外貿易の推移						
第 10 回	幕藩制下の市場構造						
第 11 回	幕藩制下の農村構造						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 12 回	幕藩制下の領主財政
第 13 回	商品経済の発展と幕藩制の動揺
第 14 回	開港とその影響
第 15 回	まとめと小テスト
第 16 回	明治維新
第 17 回	地租改正と秩禄処分
第 18 回	殖産興業
第 19 回	日本の産業革命
第 20 回	財政と金融
第 21 回	地主制の成立
第 22 回	まとめと小テスト
第 23 回	第一次世界大戦と日本経済
第 24 回	1920 年代の日本経済
第 25 回	昭和恐慌
第 26 回	戦時経済
第 27 回	戦後経済改革
第 28 回	経済復興
第 29 回	高度経済成長
第 30 回	まとめ

授業科目名 (英語名)	民 法 (Civil Law)			担当教官名	大 内 和 直		
単 位 数	4単位	学期	後 期	曜日・校時	火曜日 VI校時 火曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授 業 の ね ら い	<p>民法典のうち、総則・物権・債権を中心とした財産法分野について、基礎的な制度を理解し、取引と財産の移転あるいは契約と責任の発生の関係などについて、体系的に把握することを目的とする。制度を理解するために必要な範囲で、不動産登記法や借地借家法など民法の関連法にも触れる。</p> <p>また、実際の事例問題を取り上げて検討し、分析力と法的思考力を養うようにしたい。</p>						
授 業 内 容 と 方 法	教科書を基本とし、プリントを用いて民法の基礎的な概念、用語、制度の理解を図る。また、判例や時事問題になったような事例を検討して、理解を深める。						
履 修 条 件 等	な し						
テキスト、参考書等	<p>テキスト…丸山英気・三好登『民法概説（第三版）』（2004年・成文堂）</p> <p>参考書…『2004年コンパクト六法』（岩波書店）を常時参照する。</p>						
成績評価の方法	期末試験の得点を基礎とする。それに、適宜行う小テストの得点および日頃の出席状況を得点化して加算する。						
オフィスアワー	毎週水曜日 13時30分から14時30分						
その他メッセージ	上記「オフィスアワー」以外ならば、講義の時間を除き、随時質問や相談に応じる。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	ガイダンスー履修上の注意点、民法の歴史						
第 2 回	民法の基礎概念 (1)ー用語、権利と制度 (債権・物権・登記)						
第 3 回	民法の基礎概念 (2)ー「入」(個人と団体)、「物」(不動産と動産、元物と果実)						
第 4 回	民法の基礎概念 (3)ー権利能力、法人と組合、法人の種類、代表機関、『権利能力なき社団』						
第 5 回	事故と責任 (1)ー不法行為の意義と要件、責任能力、『過失責任の原則』						
第 6 回	事故と責任 (2)ー損害賠償責任、賠償の範囲、『相当因果関係説』、共同不法行為						
第 7 回	事故と責任 (3)ー無過失責任、製造物責任、使用者責任、土地工作物責任						
第 8 回	契約と責任ー契約の成立、典型契約、法的な性質、契約の当事者						
第 9 回	売買契約 (1)ー契約の目的物、売主の担保責任、「同時履行の抗弁権」						
第 10 回	売買契約 (2)ー契約と権利移転、手付、特殊な売買						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 11 回	賃貸借契約 (1) - レンタル、リース、借地・借家、『賃借権の物権化』
第 12 回	賃貸借契約 (2) - 契約の存続期間、敷金・権利金、賃借権の譲渡、転貸
第 13 回	消費貸借契約 - 利率、利息の制限、高金利の規制
第 14 回	契約の自由と制限 (1) - 意思表示、法律行為、契約成立の要件、能力制限
第 15 回	契約の自由と制限 (2) - 危険負担、無効・取消、条件・期限、期間、不当利得
第 16 回	契約の自由と制限 (3) - 代理、無権代理、「表見代理」
第 17 回	債務の消滅 (1) - 弁済、代物弁済、供託、弁済の充当、履行の強制
第 18 回	債務の消滅 (2) - 消滅時効、時効の援用、中断と停止
第 19 回	債務不履行 - 不履行の 3 類型、損害賠償、契約の解除権
第 20 回	債権者の保護 - 債権者代位権、代位権の転用、債権者取消権
第 21 回	多数当事者の関係 - 債務の配分、不可分債務、連帯債務
第 22 回	債権の回収 (1) - 人的担保 (保証、連帯保証)、債権譲渡、債務引受
第 23 回	債権の回収 (2) - 物的担保 (担保権の種類、約定担保物権、競売手続)
第 24 回	典型的担保権 - 質権、抵当権 (法定地上権、代価弁済、根抵当)
第 25 回	非典型担保権 - 仮登記担保権、譲渡担保、所有権留保
第 26 回	物の確保 (1) - 所有権の移転、物権変動の方法、物権的請求権、対抗要件
第 27 回	物の確保 (2) - 共有と持分権、相隣関係、占有権、即時取得
第 28 回	講義の要点整理、質問の受付け
第 29 回	期末試験

授業科目名 (英語名)	国際関係論 (International Relations)			担当教官名	Dr. G. C. Gum		
単位数	4単位	学期	後期	曜日・校時	木曜日 VII校時 金曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授業のねらい	<p>To provide a comprehensive understanding of Japan's international relations with Asia.</p> <p>To expand asis "literacy"</p>						
授業内容と方法	Lectures on specific interactions with Asian countries, addressing such issues as historical-cultural, connections, business links, politics, environment, ODA, human rights. peace-keeping, etc.						
履修条件等							
テキスト、参考書等	Various country-specific readings as prescribed. Various Internet sources as prescribed.						
成績評価の方法	Submission of written report in academic English. (専門的な英語によるレポートを提出してもらう)						
オフィスアワー	1-5 (pm)						
その他メッセージ	Lecture in academic English. (専門的な英語による講義を行う。)						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	The International System						
第 2 回	"						
第 3 回	Japan in the International System						
第 4 回	Rethinking Japan's ODA						
第 5 回	Japan and the United Nations						
第 6 回	Japan and Indonesia						
第 7 回	"						
第 8 回	Japan and East Timor						
第 9 回	"						
第 10 回	Japan and Philippines						
第 11 回	"						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 12 回	Japan and Thailand
第 13 回	"
第 14 回	Japan and Malaysia
第 15 回	"
第 16 回	Japan and Singapore
第 17 回	Japan and Vistnam
第 18 回	Japan and Cambodia
第 19 回	"
第 20 回	Japan and China
第 21 回	"
第 22 回	"
第 23 回	"
第 24 回	Japan and Korea
第 25 回	"
第 26 回	Japan and Oceania
第 27 回	"
第 28 回	Japan and South Asia
第 29 回	"
第 30 回	Japan and the Middle East

授業科目名 (英語名)	経営管理論 (Business Management)			担当教官名	菅家正瑞		
単位数	4単位	学期	後期	曜日・校時	月曜日 VI校時 月曜日 VII校時	教室	本 121 教室
授業のねらい	企業活動の合理化を課題とする経営管理（企業管理）の成立と発展の足跡をたどりながら現代企業の経営管理（企業管理）の構造を明らかにし、その管理構造における基本問題を考察することによって、経営管理（企業管理）の基本概念を理解できるようにする。						
授業内容と方法	<p>財務管理論（企業ファイナンス）、労務管理論、生産管理論、販売管理論（マーケティング）など、経営管理の各論を学ぶうえで必要な、経営管理に関する基本的で一般的な諸問題を考察する。</p> <p>具体的には下記の授業計画に示されているように、経営管理の成立と発展を跡づけながら、その構造、課題、原理などの基本的な問題を考察する。</p> <p>テキストと授業中に配布する「講義ノート」（プリント）を中心にしながら口述する。</p>						
履修条件等	経営学、簿記（学部基礎科目）を履修したうえで、企業論、財務会計論、原価計算論、（総合経済コース基礎科目）などと平行履修すればより理解が容易になり内容も深まるであろう。						
テキスト、参考書等	<p>テキスト：菅家 正瑞、『企業管理論の構造』、千倉書房、平成3年。</p> <p>参考書：佐々木、小松（編著）、『現代企業の経営学』、八千代出版、平成7年、第4章経営管理（菅家担当）。</p> <p>藻利重隆、『経営管理総論（第二新訂版）』、千倉書房、昭40年。</p>						
成績評価の方法	期末試験と中間試験の成績（80%の配点を予定）、講義の途中に予定しているレポートや小テストの成績と授業への参加状況（20%の配点を予定）などによって総合的に評価する。						
オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも質問等に応じます。						
その他メッセージ	授業中の出入りは原則的に認めません。場合によっては20分以上の遅刻者は入室を禁止し、私語などで授業を妨害する学生は退室させます。						
授 業 内 容（重要項目・キーワード）							
第1回	イントロダクション 序章 経営管理の概念（1） 1 経営管理の概念 2 経営管理の対象						
第2回	序章経営管理の概念（2） 3 経営管理の階層 4 経営管理の過程 5 経営管理の立体的構造 6 経営管理の成立と発展						
第3回	第1章 成り行き管理の限界 1 成り行き管理の成立 2 成り行き管理の展開（1）						
第4回	2 成り行き管理の展開（2） 3 成り行き管理の限界 第1章の総括						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 5 回	第 2 章 科学的管理の本質 1 『一つの出来高給制度』と要素的賃率決定 2 『工場管理論』と課業管理 (1)
第 6 回	2 『工場管理論』と課業管理 (2) 3 『科学的管理の諸原則』と「作業の科学」
第 7 回	4 科学的管理の本質 5 テイラーとファヨールの管理論 (1)
第 8 回	5 テイラーとファヨールの管理論 (2) 第 2 章の総括
第 9 回	第 3 章 人事管理の成立 1 科学的管理反対運動 2 人事管理の成立と発展 (1)
第 10 回	2 人事管理の成立と発展 (2) 3 人事管理の本質と限界 第 3 章の総括
第 11 回	第 4 章 フォードの経営管理 1 フォーディズムとその意義 (1)
第 12 回	1 フォーディズムとその意義 (2) 2 フォード・システムと「同時管理」
第 13 回	3 フォードの経営管理の本質
第 14 回	第 1 章から第 4 章までの総括
第 15 回	中間試験
第 16 回	第 5 章 現代の経営管理 1 企業環境と経営管理 2 企業環境の変質
第 17 回	3 企業の変質 4 環境管理の成立
第 18 回	5 現代の経営管理の構造と課題 第 5 章の総括
第 19 回	第 6 章「生産管理」と資本の運用 1 生産管理の課題と原理 2 資本運用の能率化
第 20 回	3 資本運用の貨幣的側面 4 資本運用の時間的側面
第 21 回	5 資本運用の長期化 6 生産管理の限界 第 7 章の総括
第 22 回	第 7 章「労務管理」と労働者の経営参加 1 労務管理の課題と原理 2 ドイツにおける労使共同決定制度
第 23 回	3 監査役会における意思決定の実態 4 個々の監査役の行動
第 24 回	5 労働者の経営参加の限界 6 労務管理の限界 第 7 章の総括
第 25 回	第 8 章「環境管理」と企業の社会的責任 1 環境管理の課題と原理 2 企業とその環境
第 26 回	3 企業の社会的責任 4 企業の社会的責任と経営管理
第 27 回	5 環境管理の限界 第 8 章の総括
第 28 回	環境管理の実践 (企業の社会的貢献活動に関する企業担当者による実態報告を予定)
第 29 回	本講義の全体的総括と学生による授業評価
第 30 回	期末試験

授業科目名 (英語名)	原 価 計 算 論 (Cost Accountind)			担当教官名	近 藤 隆 史		
単 位 数	4単位	学期	後 期	曜日・校時	木曜日 VI校時 金曜日 VI校時	教室	本 121 教室
授 業 の ね ら い	<p>本講義のねらいは以下の二つになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原価／原価計算の基礎知識と現代原価計算の体系的な理解 ・製品原価のさまざまな計算方法の習得 						
授 業 内 容 と 方 法	<p>原価計算論は、原価情報が必要とされるさまざまな状況に対して、それぞれ適切な原価概念に基づいて原価がどのように測定、計算されるかを明らかにすることを基本課題としています。本講義では、計算事例を取り入れながら原価計算の基礎とその実践的手続きを学ぶほか、ABC/ABM、原価企画、スループットアカウンティングなどの現代経営が取り組む原価計算システムについても説明していきます。</p>						
履 修 条 件 等	簿記の単位を取得済みであること。						
テキスト、参考書等	<p>テキスト 加登豊・山本浩二 [1996] 『原価計算の知識』 日本経済新聞社。</p> <p>参考書 小林哲夫 [1993] 『現代原価計算論－戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ－』 中央経済社。</p>						
成 績 評 価 の 方 法	小テスト、レポート、期末試験の成績で行なう。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	開講時に指示する。						
そ の 他 メ ッ セ ー ジ	電卓を用意しておくこと。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	講義ガイダンス						
第 2 回	損益分岐分析 (1)						
第 3 回	損益分岐分析 (2)						
第 4 回	損益分岐分析 (3)						
第 5 回	工業簿記の基礎						
第 6 回	原価計算の基本概念 (1)						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 7 回	原価計算の基本概念 (2)
第 8 回	個別原価計算 (1)
第 9 回	個別原価計算 (2)
第 10 回	個別原価計算 (3)
第 11 回	小テスト
第 12 回	総合原価計算 (1)
第 13 回	総合原価計算 (2)
第 14 回	総合原価計算 (3)
第 15 回	直接原価計算 (1)
第 16 回	直接原価計算 (2)
第 17 回	業績評価システムとしての原価計算
第 18 回	標準原価計算 (1)
第 19 回	標準原価計算 (2)
第 20 回	標準原価計算 (3)
第 21 回	小テスト
第 22 回	活動基準原価計算 (1)
第 23 回	活動基準原価計算 (2)
第 24 回	活動基準原価計算 (3)
第 25 回	スループットアカウンティング
第 26 回	コストマネジメント (1)
第 27 回	コストマネジメント (2)
第 28 回	コストマネジメント (3)
第 29 回	予備日
第 30 回	予備日

授業科目名 (英語名)	国際経済学 (International Economics)			担当教官名	バスーD. ラグ		
単位数	4単位	学期	前期	曜日・校時	火曜日 VI校時 水曜日 VII校時	教室	本 201 教室
授業のねらい	The aim is introduces the students to the most important aspects of International Trade Theory, Theory of Payments and International Economics Policy Issues.						
授業内容と方法	Theories of International Trade, Analysis of Balance of Payments, Inter-relationship between Monetary-Fiscal and Exchange Rate Policies, Foreign Exchange Market, International Institutions and Policies.						
履修条件等	Very good Knowledge in English, Macro and Micro Economics. ミクロ経済学、マクロ経済学を履修した後に受講するのが望ましい。						
テキスト、参考書等	*Kenen, International Trade, Cambridge Unive Press Pibeam, International Finance, Macmillan Branson-Macroeconomic Theory and Policy, Harper Collins						
成績評価の方法	Written Examinations. (Without any supporting materiasls) for minutes once						
オフィスアワー	Monday To Friday 11:00 – 12:00						
その他メッセージ	Lecture, twice a week in English, only.						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	Theory of Comparative Advantage						
第 2 回	Gains form Trade						
第 3 回	"						
第 4 回	Factor endowment						
第 5 回	"						
第 6 回	Factor Substitutions						
第 7 回	"						
第 8 回	Factor Price Equalisations						
第 9 回	"						
第 10 回	Tariffs and Welfare						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 11 回	Tariffs and Welfare
第 12 回	"
第 13 回	Balance of Payments and Monetary Sector
第 14 回	"
第 15 回	Balance of Payments and Monetary Sector
第 16 回	"
第 17 回	"
第 18 回	"
第 19 回	Exchange Rate-Concepts
第 20 回	Determinations of Exchange Rates
第 21 回	"
第 22 回	Foreign Exchange Market
第 23 回	Demands and Supplies of Foreign Exchange
第 24 回	"
第 25 回	"
第 26 回	Forward and Effective Exchange Rates
第 27 回	"
第 28 回	Exchange Rate and Balance of Payments
第 29 回	"
第 30 回	"

授業科目名 (英語名)	開発経済学 (Development Economics)			担当教官名	青山 繁		
単位数	4単位	学期	前期	曜日・校時	月曜日 VI校時 木曜日 VII校時	教室	新 201 教室
授業のねらい	開発途上国と移行国が抱える問題とそれへの対応について理解を深める。その過程で多くの知識を習得するほか、基礎的経済理論を理解して応用する能力と自分の頭で考え表現する能力を養う。						
授業内容と方法	<p>経済開発の理論と実際について、制度的・文化的側面や先進国との比較に十分考慮を払いながら、幅広く検討する。</p> <p>授業のねらいを達成するため、テキストおよび配布資料をもとに、教官が受講者と問答しながら授業を進める。これをスムーズに行うため、受講者は毎回テキストの予習（平均 10 ページ程度）が求められる。</p> <p>また、授業への貢献度を成績評価に反映させる。具体的には、的確な答え、良い意見や良い質問があったときにその人に点数を与えていく方式である。したがって、授業への積極的な姿勢が期待される。</p>						
履修条件等	特になし						
テキスト、参考書等	(テキスト) T.J. イエーガー著『新制度派経済学入門－制度・移行経済・経済開発』 東洋経済新報社、2001年（2340円；生協価格）						
成績評価の方法	3回の小テスト（合計90点）と授業への貢献度（10点）による。						
オフィスアワー	第1回目の授業で指示する。						
その他メッセージ	この授業では出席することがとても大事なので、連続して3回欠席した人、または合計6回欠席した人には、それ以降の受講を遠慮していただく（第1回目の授業から適用するので、十分注意すること）。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	イントロダクション						
第 2 回	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p>経済発展の理論</p> <p>テキスト（1～2章）に加え、配布資料により、経済発展（経済成長）に関する主要な理論について学ぶ。</p> </div>						
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 5 回							

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回 中間テスト (第 1 回目)

第 12 回

経済移行の理論と実際

第 13 回

社会主義から資本主義への移行の理論と実際について、テキスト (7～8 章) を用いて学ぶほか、配布資料により、失業、為替レート、国際収支、対外借入れなどの基本的事項について学ぶ。

第 14 回

第 15 回

第 16 回

第 17 回

第 18 回

第 19 回

第 20 回 中間テスト (第 2 回目)

第 21 回

開発途上国の経済

第 22 回

開発戦略の制度的側面についてテキスト (9～11 章) を用いて学ぶほか、配布資料により人口、農業、雇用、都市化などの問題について学ぶ。

第 23 回

第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回 中間テスト (第 3 回目)

授業科目名 (英語名)	公 共 経 済 学 (Public Economics)			担当教官名	春 日 教 測		
単 位 数	2単位	学期	前 期	曜日・校時	火曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	政府など公共部門の活動を経済学的観点から分析・評価する。政府活動のうち調達面よりは支出面に力点を置き、経済厚生上の意味について理解を深めることを目的とする。また、公的規制が必要とされる産業については、規制の根拠・手段・効果等について具体例を交えながらやや詳細に検討し、政府介入が正当化される場合の理由について考察する。						
授 業 内 容 と 方 法	授業内容は教科書に沿う。授業の進め方は概ね参考書①の章立てに従い、参考書②および③によって補完する。また、公的規制が必要とされる産業については、参考書④および⑤を利用する。適宜資料を配布するが、参考書②および④については、テキストと並行して学習すれば理解を深める手助けとなろう。						
履 修 条 件 等	特に条件はないが、ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。						
テキスト、参考書等	教科書 谷口洋志 (1998) 『公共経済学』 創成社 参考書 ①岸本哲也 (1998) 『公共経済学』 有斐閣 (新版、有斐閣経済学叢書 12) ②常木 淳 (2002) 『公共経済学 第2版』 新世社 (新経済学ライブラリー 8) ③麻生良文 (1998) 『公共経済学』 有斐閣 (特に5章まで) ④植草 益 (2000) 『公的規制の経済学』 NTT 出版 ⑤依田高典 (2001) 『ネットワーク・エコノミクス』 日本評論社						
成績評価の方法	定期試験の成績による。 また、講義の進展に応じてレポートを課し、評価の一部とする可能性もある。						
オフィスアワー	在室中は原則として対応するが、面会内容・時間等について、できるだけ事前にメールでアポイントをとること。						
その他メッセージ	理論を理解するだけでなく、新聞をよく読んで、現実社会との対応を常に意識してください。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	イントロダクション：公共経済学の位置づけ						
第 2 回	自由市場経済の帰結 (厚生経済学の基本定理とパレート最適)						
第 3 回	市場の失敗 (余剰分析、市場の失敗が生じる要因)						
第 4 回	公共財の理論 I (公共財の性質、公共財の最適供給)						
第 5 回	公共財の理論 II (リンダール・メカニズム)						
第 6 回	外部効果 I (外部経済性/不経済性とは?)						
第 7 回	外部効果 II (外部性の私的解決方法：コースの定理)						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 8 回	外部効果Ⅲ (外部性の公的解決法：ピグー税、排出権取引)
第 9 回	費用逡減産業Ⅰ (規模の経済性と料金水準論)
第 10 回	費用逡減産業Ⅱ (規制緩和：諸外国の実例)
第 11 回	費用逡減産業Ⅲ (規制緩和：日本の事例)
第 12 回	費用逡減産業Ⅳ (競争下の規制の諸問題)
第 13 回	所得分配 (効率と公正)
第 14 回	予備日

授業科目名 (英語名)	労働経済学 (Labor Economics)			担当教官名	福澤勝彦		
単位数	2単位	学期	後期	曜日・校時	火曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授業のねらい	標準的な労働経済学についての講義を行う。ミクロ経済学の応用によって労働市場を分析する。特に、意志決定問題を中心にすえ、労働者の人生の選択を様々な面から分析する基礎を習得する。						
授業内容と方法	講義および課題を課す						
履修条件等	経済学の基礎						
テキスト、参考書等	是枝・福澤・村田『ミクロ・エコノミクス』、九大出版						
成績評価の方法	課題およびテスト						
オフィスアワー	随時						
その他メッセージ	メールでご連絡ください。kfuku@net.nagasaki-u.ac.jp						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	労働経済学とは						
第 2 回	労働法の基礎と現代の労働・・・フリーターの諸問題						
第 3 回	労働供給 1						
第 4 回	労働供給 2						
第 5 回	労働供給 3						
第 6 回	労働の需要 1						
第 7 回	労働の需要 2						
第 8 回	市場の調整						
第 9 回	余剰問題						
第 10 回	労働組合と労働法 1 雇用に関わる様々な問題						
第 11 回	労働組合と労働法 2						
第 12 回	労働組合の独占						
第 13 回	集団的労使交渉						
第 14 回	予備						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

--	--

授業科目名 (英語名)	産業構造論 (Industrial Economics)			担当教官名	藤田 渉		
単位数	2単位	学期	前期	曜日・校時	木曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授業のねらい	<p>一国の経済は数多くの産業で構成され、またその構成や盛衰はその国独自の特徴を持っています。したがって、もしたたとえば日本経済を知ろうとするならば、マクロ経済や企業レベルの視点だけではなく、この産業構造の理解が必要になります。本講義では表面的な産業動向を歴史的になぞることに終始せず、産業連関分析の初歩までを扱います。議論の中では技術開発と産業構造の関係、また情報やエネルギー・環境問題などとの関係まで踏み込んでみたいと考えています。</p>						
授業内容と方法	<p>基本的にはテキストを中心に、配布物、プロジェクトなどを利用して講義を進めます。また、ホームページを用いた講義メモなども必要に応じて用意します。</p> <p>時間が許せばメディアステーションでPCを用いた簡単な分析の演習も行いたいと考えています。</p>						
履修条件等	<p>ミクロ経済学やマクロ経済学など、経済学関連科目を既に履修している方が理解はしやすいと思われませんが、必要な予備知識は講義中にも時間が許せば解説します。</p>						
テキスト、参考書等	<p>比較的入手が容易で価格も手ごろなものとして以下を指定します。</p> <p>(1) 小野五郎「産業構造入門 (日経文庫-経済学入門シリーズ)」、日本経済新聞社 (2) 宮沢健一編「産業連関分析入門 (日経文庫-経済学入門シリーズ)」、日本経済新聞社より進んだ学習のためには、以下のテキストを推薦します。</p> <p>産業を対象とする経済学の基本的テキスト、</p> <p>○宮沢健一『第2版、産業の経済学』、東洋経済新報社</p> <p>副読本として日本における産業構造の概観を、かいつまんで知るには、</p> <p>○三橋規定・他『ゼミナール 日本経済入門』日本経済新聞社</p> <p>産業連関分析のための、線形代数を中心とした多少の数学的知識の学習には、</p> <p>○藤田渉・福澤勝彦・他『経済数学』勁草書房</p> <p>なお、基礎知識を整理する意味で、各自のミクロ経済学のテキストでは企業行動、および国際貿易の部分を、マクロ経済学のテキストでは経済成長の部分を、よく読んでおいてください。</p> <p>さらに、産業構造とマクロ経済学の関連のより現代的な扱い方について進んだ学習をしたい場合には、以下のテキストが入手可能です。</p> <p>○秋山裕『経済発展論入門』東洋経済新報社 ○藤川済史『グローバル経済の産業連関分析』創文社</p>						

成績評価の方法	成績評価は出席、小テスト、課題レポート、試験などにより総合的に評価します。
オフィスアワー	講義に関する直接的な質問については、原則講義中および講義直後に対応します。簡単な質問ならば電子メールでも結構です。 電子メール・アドレス：wfujita@net.nagasaki-u.ac.jp
その他メッセージ	新聞の経済記事を読む習慣をつけること。文庫本レベルでよいから技術や政策と産業の発達を取り上げた書籍を何冊か読破して欲しい。理論から始まるのではなく、現実の経済・社会の動向から興味を持って欲しい。
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)	
第 1 回	ガイダンス、およびイントロダクション
第 2 回	「産業の経済学」に関する概論 (1)
第 3 回	「産業の経済学」に関する概論 (2)
第 4 回	産業分類と「産業構造」
第 5 回	データから分析する産業構造 (1)
第 6 回	データから分析する産業構造 (2)
第 7 回	産業構造の変化とその要因を考える
第 8 回	身近な産業構造問題を考える
第 9 回	産業連関表と産業連関分析の基礎 (1)
第 10 回	産業連関表と産業連関分析の基礎 (2)
第 11 回	産業構造を議論するためのインデックス (指標)
第 12 回	産業構造と貿易構造
第 13 回	地域別の産業構造比較
第 14 回	応用的な分析の紹介
第 15 回	予備日

授業科目名 (英語名)	地方財政論 (Public Finance of Local Government)			担当教官名	山下 耕 治		
単 位 数	2単位	学期	前 期	曜日・校時	水曜日 VII校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	<p>本講義の目的は、わが国の政府間関係について理解を深め、地方財政システムの在り方について検討することである。地方財政論とは、ある地方自治体（例えば、長崎県や長崎市）の財政状況の把握や財源調達の妙策を検討することに主眼がある訳ではない。政府内（国と地方）の役割分担について経済学的に正しい理解と評価ができるようになることに、この授業のねらいがある。もちろん、講義では、地方自治体の一例として長崎県や長崎市等のデータを提示し、その実態についても理解を深める。</p>						
授 業 内 容 と 方 法	<p>財政とは、政府の行う経済活動である。その財政のなかでも、近年、地方財政に変革を求める声が大きいの。特に、わが国の中央集権システムの弊害が露呈する状況下で、地方分権は、効率的な財政運営を実現するものとして期待されている。例えば、地方交付税改革、市町村合併、独自課税、ミニ公募債（地方債）などが大きな関心を集めるようになった。そこで本講義では、地方財政の理論、制度、実態を解説する。</p>						
履 修 条 件 等							
テキスト、参考書等	<p>テキストは使用しない 〈参考書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林宜嗣（1999）『地方財政』有斐閣ブックス ・ 赤井伸郎・佐藤主光・山下耕治（2003）『地方交付税の経済学』有斐閣 ・ 林宏昭・橋本恭之（2002）『入門地方財政』中央経済社 						
成績評価の方法	試験の結果が主たる評価対象であるが、レポートを課す場合もある。						
オフィスアワー	水曜日の 17:30 ~ 19:30（これ以外でも、研究室にいる限り対応します）						
その他メッセージ							
授 業 内 容（重要項目・キーワード）							
第 1 回	財政の役割：財政の 3 機能						
第 2 回	地方財政とは何か：中央政府の支配下にある自治体、膨張する地方財政の規模						
第 3 回	国と地方の役割分担：中央集権と地方分権、足による投票、地方分権定理						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 4 回	地方財政制度：制度と予算、普通会計と公営事業会計
第 5 回	地方歳出の実態：目的別分類と性質的分類、高水準の公共事業
第 6 回	地方歳出の効率化：行政区域の最適規模、市町村合併と広域行政
第 7 回	地方歳入－地方税－：地方税の原則、受益と負担の乖離
第 8 回	地方税制改革：課税自主権、租税競争と租税輸出
第 9 回	財政移転の理論：特定補助と一般補助金、三割自治
第 10 回	地方歳入－国庫支出金－：補助金配分と政治的要因
第 11 回	地方歳入－地方交付税－：地方交付税制度とモラルハザード
第 12 回	地方歳入－地方債－：住民移動と起債制限、地方債の格付け
第 13 回	高齢化社会と地方政府：福祉政策の効率化、公的介護保険
第 14 回	地方公営企業と第 3 セクター：住民ニーズの多様化、経営破綻の急増
第 15 回	地域活性化と地方政府：地域経済の実態、独自性を発揮したまちづくり

授業科目名 (英語名)	租 税 法 (Tax Law)			担当教官名	安 住 修 一		
単 位 数	2単位	学期	前 期	曜日・校時	水曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	<p>税込面で、所得税に続き2番目の地位を占め、今後ますます重要性を増すと思われる消費税の仕組み全般を理解することを目的とする。</p> <p>その際、所得税、法人税との類似点や相違点に敷衍して、主要3税目の概要も理解できるよう配慮する。</p> <p>個々の課税対象、非課税、免税等の項目の学習に当たっては、その趣旨、背景、意義を第一義的に理解することを目標とし、次に規定の詳細を習得することとする。</p>						
授 業 内 容 と 方 法	<p>テキストを中心として、具体的にどういうことが争点となるかという問題意識を持って各項目が理解出来るように、講義することを基本とする。</p> <p>図式化した副教材を使用するなど、平易で分かり易い説明に努める。</p>						
履 修 条 件 等	特段の制限無し。						
テキスト、参考書等	<p>(テキスト)</p> <p>安住修一編「やさしい消費税」(平成15年度版)大蔵財務協会</p> <p>(参考書)</p> <p>図解消費税(平成15年版)大蔵財務協会</p>						
成績評価の方法	定期試験による。						
オフィスアワー	授業内容等についての質問は、授業後休み時間に受け付ける。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	消費税のあらまし(消費税の性格・基本的な流れとその仕組み)						
第 2 回	間接税の概要(間接税の諸類型、消費税創設の背景)						
第 3 回	課税対象(課税の対象となる取引とは何か)						
第 4 回	納税義務者(小規模事業者の特例)						
第 5 回	納税義務の成立時期						
第 6 回	課税標準と税率						
第 7 回	非課税(非課税の意義と非課税取引の範囲)						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 8 回	輸出免税 (免税の意義と免税取引の範囲、免税と非課税の違い)
第 9 回	税額控除 (税額の計算)
第 10 回	税額控除 (簡易課税)
第 11 回	税額控除 (帳簿等の保存義務)
第 12 回	申告と納付
第 13 回	消費税制度の変遷
第 14 回	15 年度税制改正と今後の課題
第 15 回	予備

授業科目名 (英語名)	ア ジ ア 経 済 論 (Modern Asian Economies)		担当教官名	井 手 啓 二			
単 位 数	2単位	学期	前 期	曜日・校時	月曜日 VII校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	日本にとって歴史的また経済的に、特別に関係の深い東アジア諸国の近代化、工業化、資本主義化の歩みと現状、直面する諸問題、ならびに日本との関係について基本的理解を獲得してもらうことを目的とする。						
授 業 内 容 と 方 法	近代化、工業化は、いずれの国にとっても長期にわたる歴史的事業であり、アジアのそれを論じる場合も少なくとも 19 世紀後半以降の各国における歩みを尋ねるという歴史的方法が不可欠である。21 世紀初めの現状に相対的力点をおくが、いずれの国についても 19 世紀後半から始める。中国、A・NIEs、ASEAN 4 の 9 つの国・地域をとりあげる。 レジュメ、資料に基づく講義である。						
履 修 条 件 等	レジュメ、資料に基づく講義であるから出席に留意されたい。						
テキスト、参考書等	テキストなし。 参考書：渡辺利夫編『アジア経済読本』（東洋経済新報社）、大野健一ほか『東アジアの開発経済学』（有斐閣）、原洋之介編『アジア経済論』（NTT 出版）。 小林英夫『戦後アジアと日本企業』（岩波新書）						
成績評価の方法	前期末試験及び出席等の平常点による。						
オフィスアワー	講義終了後の時間をあてる。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	イントロダクションー東アジア経済と日本、研究の歴史						
第 2 回	欧米列強・日本のアジア進出。支配と独立ー歴史的概観						
第 3 回	中国における工業化・近代化の開始ー 19 世紀半ば～ 1949 年						
第 4 回	中国経済の発展過程ー政策と制度の変化 1949 ～ 2004 年						
第 5 回	社会主義市場経済化をめざす中国経済の現段階						
第 6 回	李朝期末・日本帝国主義下の朝鮮の工業化・近代化						
第 7 回	第 2 次世界大戦後の韓国経済の発展ー 1945 ～ 2004 年						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 第 8 回 | 清末・日本帝国主義下の台湾の工業下・近代化 |
| 第 9 回 | 第 2 次世界大戦後の台湾経済の発展－ 1945 ～ 2004 年 |
| 第 10 回 | 香港経済の歩みと現状 |
| 第 11 回 | シンガポール経済の歩みと現状 |
| 第 12 回 | 東南アジア経済・ASEAN 経済論 (1) タイ、マレーシア |
| 第 13 回 | 東南アジア経済・ASEAN 経済論 (2) インドネシア、フィリピン |
| 第 14 回 | まとめ・調整日 |

授業科目名 (英語名)	知的財産法 (Intellectual Property Law)			担当教官名	岡本 芳太郎		
単位数	2単位	学期	後期	曜日・校時	木曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授業のねらい	<p>近年脚光をあびている特許、商標、著作権等の知的財産の法的保護に関する基本的知識を習得するとともに、事例を中心に企業や研究機関における知的財産の育成、管理、活用等の状況についても学習する。</p> <p>なお、知的財産保護の属地主義に基づく問題点や知的財産保護の強化について競争法の観点からの問題点についても考える。</p>						
授業内容と方法	レジュメ、テキストに基づく講義形式で行うが、知的財産取得のための手続き、権利保護の論点に関する判例や活用事例の紹介等については、OHP やスライドも活用する。						
履修条件等	特になし。						
テキスト、参考書等	「現代経営と知的財産権 (第2版)」高橋義郎、創成社 2003 なお、知的財産法が掲載されている六法を準備することが望ましい。						
成績評価の方法	出席と試験成績による。						
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも受け付ける。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	知的財産法の機能と知的財産の種類						
第 2 回	ビジネス方法特許						
第 3 回	特許権の要件と取得						
第 4 回	特許権の実施とライセンス						
第 5 回	特許権侵害訴訟						
第 6 回	著作権						
第 7 回	著作隣接権						
第 8 回	商標権と商品等表示						
第 9 回	意匠・実用新案他						
第 10 回	営業秘密						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|---------------|
| 第 11 回 | 知的財産の国際展開 (1) |
| 第 12 回 | 知的財産の国際展開 (2) |
| 第 13 回 | 知的財産と独占禁止法 |
| 第 14 回 | 経営資源としての知的財産権 |

授業科目名 (英語名)	金 融 シ ス テ ム 論 (Financial System)			担当教官名	阿 萬 弘 行		
単 位 数	2単位	学期	後 期	曜日・校時	月曜日 VII校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	現在の日本の金融システムは、国内的・国際的な諸要因によって、さまざまな制度上の問題を抱えるとともに、大きな変革の途上にあります。そこで、本講義では、日本の金融システムについて、制度・仕組みを理論・実証の両面から理解するために、主要なテーマごとに解説を行います。主だった金融市場や金融機関の仕組みに関して講義するとともに、時事的な金融問題も適宜とりあげます。						
授 業 内 容 と 方 法	毎回個別テーマごとに、レジュメ・参考資料を配布し、それに基づいて講義します。必要に応じて、新聞・経済雑誌からの記事に関する解説を行います。受講者には、特定のテーマに関するレポートや感想を授業時間中に口頭で報告してもらう予定です。						
履 修 条 件 等	特になし						
テキスト、参考書等	特定のテキストは指定しません。 授業中に参考書を適宜紹介します。						
成績評価の方法	提出物・期末試験（持ち込み不可）						
オフィスアワー	火曜日 5時30分から6時30分 上記時間帯以外での随時受け付けます。 aman@net.nagasaki-u.ac.jp まで連絡してください。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	講義のガイダンス 金融の基本的仕組み						
第 2 回	金融機関の伝統的機能						
第 3 回	銀行の不良債権問題						
第 4 回	新しい銀行ビジネス						
第 5 回	株式市場の仕組み (1) 発行市場						
第 6 回	株式市場の仕組み (2) 流通市場						
第 7 回	前半のまとめ						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 8 回	株価の形式と投資 (1)
第 9 回	株価の形式と投資 (2)
第 10 回	決済制度 (1)
第 11 回	決済制度 (2)
第 12 回	消費者向け金融サービス (1)
第 13 回	消費者向け金融サービス (2)
第 14 回	消費者向け金融サービス (3)
第 15 回	まとめ

授業科目名 (英語名)	英 会 話 I (English Conversation I)			担当教官名	チャン・ヴァーノン		
単 位 数	2単位	学期	前 期	曜日・校時	金曜日 VI校時	教室	本 121 教室
授 業 の ね ら い	The goal of this course will be to improve students' English reading, writing, and listening skills.						
授 業 内 容 と 方 法	Exercises based on two American movie videos will be used to give students extensive English reading, writing, and listening practice.						
履 修 条 件 等							
テキスト、参考書等	Printed materials.						
成績評価の方法	60% Attendance / Class Assignments 40% Video Exam						
オフィスアワー	Mondays 14 : 00 ~ 16 : 00						
その他メッセージ	Students who miss 1/3 of classes will automatically fail the course						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	Orientation						
第 2 回	Watch Video #1						
第 3 回	Vocabulary Exercise #1 / Vocabulary Exercise #3						
第 4 回	Watch Video #1 / Vocabulary Exercise #2						
第 5 回	Comprehension Questions #1						
第 6 回	Comprehension Questions #2						
第 7 回	Character Identification						
第 8 回	Watch Video #2						
第 9 回	Vocabulary Exercise #1 / Vocabulary Exercise #3						
第 10 回	Watch Video #2 / Vocabulary Exercise #2						
第 11 回	Comprehension Questions #1						
第 12 回	Comprehension Questions #2						
第 13 回	Comprehension Questions #3						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 14 回

Character Identification / Exam Description

第 15 回

Video Exam

授業科目名 (英語名)	英 会 話 II (English Conversation II)			担当教官名	チャン・ヴァーノン		
単 位 数	2単位	学期	前 期	曜日・校時	金曜日 VI校時	教室	新 101 教室
授 業 の ね ら い	The goal of this course will be to improve students' English reading, writing, and listening skills.						
授 業 内 容 と 方 法	Exercises based on two American movie videos will be used to give students extensive English reading, writing, and listening practice.						
履 修 条 件 等							
テキスト、参考書等	Printed materials.						
成績評価の方法	60% Attendance / Class Assignments 40% Video Exam						
オフィスアワー	Mondays 14 : 00 ~ 16 : 00						
その他メッセージ	Students who miss 1/3 of classes will automatically fail the course						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	Orientation						
第 2 回	Watch Video #1						
第 3 回	Vocabulary Exercise #1 / Vocabulary Exercise #3						
第 4 回	Watch Video #1 / Vocabulary Exercise #2						
第 5 回	Comprehension Questions #1						
第 6 回	Comprehension Questions #2						
第 7 回	Character Identification						
第 8 回	Watch Video #2						
第 9 回	Vocabulary Exercise #1 / Vocabulary Exercise #3						
第 10 回	Watch Video #2 / Vocabulary Exercise #2						
第 11 回	Comprehension Questions #1						
第 12 回	Comprehension Questions #2						
第 13 回	Comprehension Questions #3						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 14 回

Character Identification / Exam Description

第 15 回

Video Exam

授業科目名 (英語名)	中国語会話 I (Chinese Conversation I)			担当教官名	葛城明子		
単位数	2単位	学期	前期	曜日・校時	水曜日 VI校時	教室	本102教室
授業のねらい	中国語の初歩を学ぶ。テキストの本文を繰り返し音読することによって、中国語の正しい発音やリズムを身につけてほしい。						
授業内容と方法	まず正しい発音の習得をめざす。次に挨拶言葉や日常会話、基本文法を学ぶ。各課ともまず新しい学習内容を説明した後、「トレーニング」と「ヒアリング」は宿題とし、次の時間に答え合わせや補足説明をするというやり方で進めていく。						
履修条件等	授業時は大きい声で発音し、積極的に取り組むこと。また各自付録のCDを使って、繰り返し発音の練習をしてほしい。						
テキスト、参考書等	テキスト：塚本慶一監修・劉穎著 『《新版》1年生のコミュニケーション中国語』(白水社) 辞書：『プログレッシブ中国語辞典』(小学館)						
成績評価の方法	平常の学習状況(出席状況、発音、宿題など)と定期試験の成績により、総合的に評価する。						
オフィスアワー	水曜日 17:30～18:00 非常勤講師控室						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第1回	中国語とは(入門) 発音Ⅰ(単母音 声調)						
第2回	発音Ⅱ(子音1 無気音と有気音 軽声)						
第3回	発音Ⅲ(子音2 複母音 声調符号のつけ方)						
第4回	発音Ⅳ(鼻母音 声調の変化 儿化音)						
第5回	挨拶語 第1課(人称代名詞 動詞“是” 助詞“呢”)						
第6回	第1課(副詞“也” “请” 自己紹介)						
第7回	トレーニング1 ヒアリング1						
第8回	第2課(指示代名詞1 “吗” “不” “什么” “的”)						
第9回	トレーニング2 ヒアリング2						
第10回	第3課(指示代名詞2 形容詞述語文 “怎么样” 自己紹介)						
第11回	トレーニング3 ヒアリング3						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 12 回	第4課 (数詞 助詞“吧” 数量を表す語)
第 13 回	人民元の数え方 トレーニング 4
第 14 回	ヒアリング 4
第 15 回	復習

授業科目名 (英語名)	中国語会話Ⅱ (Chinese Conversation II)			担当教官名	葛城明子		
単位数	2単位	学期	後期	曜日・校時	水曜日 VI校時	教室	本101教室
授業のねらい	中国語の初歩を学ぶ。テキストの本文を繰り返し音読することによって、中国語の正しい発音やリズムを身につけてほしい。						
授業内容と方法	「中国語会話Ⅰ」に続き、日常会話と基本文法を中心に学ぶ。 授業の進め方も「中国語会話Ⅰ」と同様、各課ともまず新しい学習内容を説明した後、「トレーニング」と「ヒアリング」は宿題とし、次の時間に答え合わせや補足説明をしていく。						
履修条件等	授業時は大きい声で発音し、積極的に取り組むこと。また各自付録のCDを使って、繰り返し発音の練習をしてほしい。						
テキスト、参考書等	テキスト：塚本慶一監修・劉穎著 『《新版》1年生のコミュニケーション中国語』(白水社) 辞書：『プログレッシブ中国語辞典』(小学館)						
成績評価の方法	平常の学習状況（出席状況、発音、宿題など）と定期試験の成績により、総合的に評価する。						
オフィスアワー	水曜日 17:30～18:00 非常勤講師控室						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第1回	発音の復習1 第5課 (場所指示代名詞 動詞“在”)						
第2回	発音の復習2 第5課 (助動詞“要・想” 方位詞) トレーニング5						
第3回	ヒアリング5						
第4回	第6課 (動詞“有” “什么” + 名詞 助数詞)						
第5回	トレーニング6 ヒアリング6						
第6回	第7課 (時刻の言い方 時を表す語 時間の長さを表す語 時間詞)						
第7回	トレーニング7						
第8回	ヒアリング7 第8課 (完了を表す“了”)						
第9回	第8課 (選択疑問文) トレーニング8						
第10回	ヒアリング8 第9課 (前置詞“从・到”)						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 11 回	第 9 課 (二つの目的語をもつ動詞 “給”) トレーニング 9
第 12 回	ヒアリング 9
第 13 回	第 10 課 (助動詞 “可以・能・会” 前置詞 “在” 動詞の重ね用法)
第 14 回	トレーニング 10 ヒアリング 10
第 15 回	復習

授業科目名 (英語名)	言語コミュニケーション (英語) (Language Communication(English))		担当教官名	白 水 桂 子			
単 位 数	2単位	学期	後 期	曜日・校時	火曜日 VI校時	教室	本 201 教室
授 業 の ね ら い	米 ABC 放送のニュースを題材にしたテキストを使用して、ニュースの英語に馴染み、内容を理解することを目指します。ビデオによる視覚情報があるので、英文のみを読むよりも、理解しやすいと思われます。						
授 業 内 容 と 方 法	まず、ニュースで使用されている語彙のいくつかを確認します。それからビデオやテープを使用し、ニュース英語の聴き取りをして、その後、報道の内容を見ていきます。						
履 修 条 件 等	特になし。						
テキスト、参考書等	山根繁& Yamane, Kathleen (2004) ABC World News 6. Kinseido.						
成績評価の方法	出席、講義への参加態度、中間テスト(予定)及び期末テストなどを総合的に勘案して評価します。						
オフィスアワー	質問は講義直後か木曜日の 16:10 ~ 17:00 に受けます。それ以外の日時を希望の場合は事前にお知らせ下さい。						
その他メッセージ	テキストは出来る限り早く入手してください。 辞書は毎回持参のこと。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	オリエンテーション及びテキストの内容に少し入ります。(プリントで準備します) テキストで取り扱っているニュース全てを消化することは、時間の関係でできないと思われ ますが、参考として、どのようなタイトルのニュースがあるのか以下に挙げておきます。						
第 2 回	Lebanon Valley College Lowers Tuition						
第 3 回	Anti-War Protests						
第 4 回	The fall of Baghdad						
第 5 回	Cleanliness in Japan						
第 6 回	Deadly Allergies						
第 7 回	Winter Returns						
第 8 回	Unanswered Questions : Traffic						
第 9 回	The Volunteer Crunch						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|--|
| 第 10 回 | Stranded Whales in the Florida Keys. |
| 第 11 回 | Rocket Men : The New Space RACE |
| 第 12 回 | Cities in Crisis : Mayor of N. Y. to Raise Taxes |
| 第 13 回 | Obesity and Cancer |
| 第 14 回 | Parking in the National Parks |
| 第 15 回 | A Closer Look : The Spam War
Medical Privacy |

授業科目名 (英語名)	国際経営論 (International Business Management)			担当教官名	Celia. L. Umali		
単位数	2単位	学期	後期	曜日・校時	水曜日 VII校時	教室	新 201 教室
授業のねらい	Course objectives : 1) To study the theories of international business management ; 2). To have a better understanding of the motivations of international business firms; ; 3). To study how international business firms compete in a fast changing global market.						
授業内容と方法	The lecture will deal with the international business theories, the strategies, structure and business operations and management off firms as they compete in the global marketplace.						
履修条件等	The lecture will be in English.						
テキスト、参考書等	Charles Hill. International Business-Competing in the Global Marketplace, McGraw-Hill, 2002.						
成績評価の方法	Quizzes and Final Exam						
オフィスアワー	Tuesday and Wednesday, 6 – 7 : 30pm						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	Orientation						
第 2 回	Globalization and the World Economy						
第 3 回	Introduction to International Business Management						
第 4 回	Strategy and the firm						
第 5 回	Same						
第 6 回	Organization of International Business						
第 7 回	Entry strategy and Strategic Alliances						
第 8 回	Same						
第 9 回	Exporting and Importing						
第 10 回	Same						
第 11 回	Global Manufacturing Materials Management						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 12 回	Same
第 13 回	Global Marketing
第 14 回	Global Human Resource Management
第 15 回	Same

授業科目名 (英語名)	日 本 企 業 論 (Japanese Corporate System)			担当教官名	藤 野 哲 也		
単 位 数	2単位	学期	後 期	曜日・校時	木曜日 VII校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	<p>終身雇用制、年功序列制、企業別組合の日本的経営の「三種の神器」に加え、株式持合い、メインバンク・システム、系列取引などの日本企業に特徴的な制度・システムを取り上げ、日本の企業システムについて考える。</p> <p>あわせて、こうした日本の企業システムがグローバリゼーションの進展の中でどのように変化しつつあるかについても言及する。</p>						
授 業 内 容 と 方 法	OHP やビデオ等を通してできるだけ日本企業の現況に触れる。						
履 修 条 件 等	自分の目で見、自分の頭で考え、自分の言葉で語る姿勢が必要。						
テキスト、参考書等	藤野哲也『比較経営論—ソトに出た日本型経営と欧米多国籍企業—』千倉書房、1995年ほか						
成績評価の方法	レポート・試験などを総合判断。 授業に対する積極的な取り組み姿勢（発言、質問等）は高く評価する。						
オフィスアワー	Knock the door, and it will be opened to you						
その他メッセージ	授業中の私語は認められない。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	イントロダクション						
第 2 回	日本型経営システムの成功						
第 3 回	ソトに出た日本型経営システム						
第 4 回	日本型経営システムとは何か						
第 5 回	”						
第 6 回	日本企業は終身雇用か (?)						
第 7 回	”						
第 8 回	日本企業の賃金システム						
第 9 回	昇進の仕組みとしての年功序列制						
第 10 回	企業別組合						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 11 回	中間まとめ
第 12 回	株式持合い
第 13 回	メインバンク・システム
第 14 回	系列取引
第 15 回	まとめ

授業科目名 (英語名)	管 理 会 計 論 (Management Accounting)			担当教官名	小 野 哲		
単 位 数	4単位	学期	後 期	曜日・校時	月曜日 VI校時 金曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	<p>管理会計とは、企業の経営管理にとって重要な業績評価や意思決定に有用となる情報を提供する役割を担っている。また、管理会計はその生成の背景からして、経営学や工学など他の近接学問領域の研究成果を主体的かつ積極的に採り入れてきたので、学際的な性格が強いという特徴を持つ。</p> <p>本講義ではこのような管理会計について、学習上重要であると思われる項目に焦点を絞りながら授業を行うとともに、問題演習も実施することで理解を深めていくことをねらいとする。</p>						
授 業 内 容 と 方 法	<p>下記の授業計画に従い、プリントと板書を中心に講義を進め、各回の内容に応じて問題演習も行う。</p> <p>プリントはB4サイズで毎時間数枚配布するので、バインダー等で綴じておくことが望ましい。</p> <p>問題演習を行う際には、電卓等を持参すること。</p>						
履 修 条 件 等	簿記の単位を取得済みであることが望ましい。						
テキスト、参考書等	<p>テキスト：プリントと板書を中心に行うので、テキストは使用しない。</p> <p>参考書：志村正・上條秀三・長屋信義・新井一夫著、『管理会計テキスト』、東京経済情報出版。</p> <p>山口操編、『エッセンス管理会計』、中央経済社。</p> <p>山田康平編著、『経営管理会計の基礎知識 [改訂版]』、東京経済情報出版。</p> <p>渋谷武夫著、『経営分析の考え方・すすめ方 [第2版]』、中央経済社。</p>						
成 績 評 価 の 方 法	定期試験を中心に行うが、出席も勘案して評価する。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	質問等に関しては、講義終了後や研究室在室中に対応する。						
そ の 他 メ ッ セ ー ジ	開講時に指示する。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	講義ガイダンス						
第 2 回	I. 経営管理者と管理会計						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 3 回	II. 財務諸表分析 (経営分析) ①
第 4 回	II. 財務諸表分析 (経営分析) ②
第 5 回	II. 財務諸表分析 (経営分析) ③
第 6 回	III. 原価管理と管理工学的手法①
第 7 回	III. 原価管理と管理工学的手法②
第 8 回	III. 原価管理と管理工学的手法③
第 9 回	IV. 利益計画と損益分岐点分析①
第 10 回	IV. 利益計画と損益分岐点分析②
第 11 回	V. 利益計画と直接原価計算①
第 12 回	V. 利益計画と直接原価計算②
第 13 回	V. 利益計画と直接原価計算③ー補論：セグメント別損益計算と貢献差益 (利益) を含むー
第 14 回	VI. 業績評価と責任報告書①
第 15 回	VI. 業績評価と責任報告書②ー補論：ミニ・プロフィット・センターを含むー
第 16 回	VII. 事業部制を中心とするマネジメント・コントロール・システム①
第 17 回	VII. 事業部制を中心とするマネジメント・コントロール・システム②
第 18 回	VII. 事業部制を中心とするマネジメント・コントロール・システム③
第 19 回	VIII. 予算管理①
第 20 回	VIII. 予算管理②
第 21 回	VIII. 予算管理③
第 22 回	VIII. 予算管理④
第 23 回	IX. プロジェクト別損益計算①ー関連原価分析ー
第 24 回	IX. プロジェクト別損益計算②ー関連原価分析ー
第 25 回	IX. プロジェクト別損益計算③ー資本予算ー
第 26 回	IX. プロジェクト別損益計算④ー資本予算ー
第 27 回	IX. プロジェクト別損益計算⑤ー資本予算ー
第 28 回	X. ABC, ABM, ABB, バランスト・スコアカード①
第 29 回	X. ABC, ABM, ABB, バランスト・スコアカード②
第 30 回	予備日

授業科目名 (英語名)	経営情報処理 (Business Information Processing)			担当教官名	鈴木 斉		
単位数	2単位	学期	前期	曜日・校時	金曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授業のねらい	<p>現在、驚嘆すべき速度で発展・拡大を続ける情報通信技術の全容を知ることにはそれ程容易ではない。また、それらの技術がどのように経済・社会に浸透し、複雑な変化を促しているかを知るには多面的な知識を必要とする。</p> <p>本講義では、記述言語レベルの基礎知識から、アプリケーションの活用事例にいたるまでを高密度に解説しようとするものである。そして、現実のビジネスシーンにおける情報通信システムの役割と仕組みを表面的なコンピュータ論やネットワーク論に留めることなくハードウェアやソフトウェアの具体的な知識とともに理解することを目標とする。</p>						
授業内容と方法	<p>授業内容</p> <p>口述・資料提示を基本とし、受講者の理解度に応じて演習課題を用意する。</p> <p>方法</p> <p>授業内容にあわせた小レポート（資料調査、または、論述）を5回、および、中間・期末にレポート課題の提出を要求するため、各内容について基礎的な事項を解説し、いくつかの具体的な事例を紹介する。</p>						
履修条件等	なし。						
テキスト、参考書等	<p>テキスト：使用しません。</p> <p>参考書等：</p> <p>妹尾 稔著「新時代を生き抜くSEの知恵袋」共立出版</p> <p>矢沢久雄著「プログラムはなぜ動くのか」日経BP</p> <p>Mint（経営情報研究会）著「図解でわかるソフトウェア開発のすべて」日本実業出版</p>						
成績評価の方法	出席、レポート、小テスト、および、期末レポートによる総合評価。						
オフィスアワー	研究室在室中は、原則として対応します。						
その他メッセージ	<p>時間の都合が合わない時は sigh@net.nagasaki-u.ac.jp で対応します。</p> <p>本講義は http://www.msdnaa.net/japan/ 対象の科目として認定されています。</p> <p>本講義の理解を深めるために開発ツール製品を含む Microsoft 製品群を個人所有の機器にインストールすることができます。</p>						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 情報システムとビジネスとの関係 |
| 第 2 回 | 情報システムの構造 (ハードウェア / ソフトウェア / サポート / メディア) |
| 第 3 回 | システム / アプリケーション上での階層構造 (Office suite ~ 統合環境) |
| 第 4 回 | ドキュメント構造と記述言語 (TeX, HTML, XML, SGML, PS, PDF) |
| 第 5 回 | マクロ言語とスクリプト言語 (OfficeVBA, Windows Scripting Host, perl) |
| 第 6 回 | データベース記述言語 (SQL) |
| 第 7 回 | アプリケーション記述言語 (C, C++, Java, perl) |
| 第 8 回 | 予備日 (中間レポートの提出有り) |
| 第 9 回 | ネットワークとエンジニアリング |
| 第 10 回 | ネットワーク利用ビジネスの現状とセキュリティ (Windows NT/2000, UNIX) |
| 第 11 回 | 分散コンピューティングとエージェントシステム |
| 第 12 回 | オペレーティングシステムとシステム記述言語 |
| 第 13 回 | 仮想現実とアミューズメントビジネス (CG, Game, Network Music) |
| 第 14 回 | SOHO / モバイル活用とビジネス |
| 第 15 回 | 予備日 (期末レポートの提出有り) |

授業科目名 (英語名)	マーケティング (Marketing)			担当教官名	神 郡 克 彦		
単 位 数	4単位	学期	後 期	曜日・校時	火曜日 VII校時 水曜日 VI校時	教室	新 201 教室
授 業 の ね ら い	<p>市場環境が、グローバル化の進展、技術革新の深化、IT化の加速により激変する中で、現代のマーケティングは、企業経営の最も重要な領域となっています。</p> <p>マーケティングの課題は、生活者の商品・サービスへのニーズを的確に把握し、そのニーズを十分に満たした商品・サービスを最適の生産・流通・消費ルートにタイムリーに供給し、アフターサービスをすることにあります。</p>						
授 業 内 容 と 方 法	<p>授業の前半は、マーケティングの基礎理論と戦略を修得する。</p> <p>後半は、海外のマーケティング、ケーススタディ、小規模ワークショップを行い、実践的マーケティングについて学ぶ。</p>						
履 修 条 件 等	インタラクティブとディスカッション、ワークショップを通し理論と実践を志向する。						
テキスト、参考書等	<p>①「マーケティング入門」フィリップ・コトラー（ピアソン社）</p> <p>②「現代マーケティング（新版）」島口充輝（有斐閣）</p> <p>③「新版 新しい広告」小林太三郎、嶋村和恵（電通）</p> <p>④「ブランド構築と広告戦略青木行弘他（日経広告研究所）」</p>						
成績評価の方法	定期試験、授業参加と小レポート。						
オフィスアワー	事前にアポイントメントすればいつでも O.K.。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
	<p>後期授業のため、授業計画は別途お知らせします。</p> <p>学生の皆さんへの期待は次の通りです。</p> <p>風邪薬が「あれと私と一緒に飲んじゃダメ！」と警告。賞味期限の切れた食品が「私は賞味期限切れよ、食べないで！」と知らせ、「イタリア育ち、最高の香り！芳醇な味のフィニッシュワインよ私は！」とワインが語る。</p> <p>魔法のような究極コミュニケーション情報空間（ユビキタス・コンピューティング・坂村健）。</p> <p>ユビキタスネットワーク時代の到来により、伝統的マーケティングコミュニケーションは大きな革新を迫られています。日本独自のモバイル・コミュニケーションの拡大、地上デジタル放送の開始等に見られるように、マーケティング環境の構築と考え方も急速に変化しています。</p> <p>日本オリジナルな独自性のあるマーケティング手法の確立が、真に日本をグローバルにする大きな要因です。</p> <p>これからの時代を担おうとする学生たちと、時代を切り開こうとする志の持ち主が、新たな 21 世紀の時代創りに挑戦することが出来ます。</p> <p>感性豊かな発想と創造力あふれる学生生活を、学ぼうとする若者たちに心より期待します。</p>						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

--	--

授業科目名 (英語名)	経営組織論 (Organizational Theories)			担当教官名	高岡伸行		
単位数	2単位	学期	前期	曜日・校時	火曜日 VII校時	教室	新 201 教室
授業のねらい	<p>現代の社会経済システムにおいて、企業組織に求められている社会的役割の一つが、イノベーションの創造です。それは社会経済システムに対する貢献だけではなく、企業組織そのもの発展にも寄与します。そのイノベーションは協働の編成やその協働の中で働く人間の思考（の組み換え）に大きく依存しています。</p> <p>本講義では、どのような組織構造の編成、組織文化やリーダーシップのあり方が、組織的なイノベーションの創造に寄与するのか、また停滞したもしくは非効率的な組織をイノベティブな組織に変革するには、どのような弊害があり、それを乗り越えるにはどのような工夫が必要なのかを考えていきたいと思います。</p> <p>このイノベーションの創造に関連づけ、経営組織論の様々な知見を提供、理解してもらうことをねらいとします。</p>						
授業内容と方法	<p>講義の前半では、基本的な知識を提示します。その手段として、できるだけ視覚教材を用いたいと思います。その各講義で提示した知識と、視聴覚教材を利用して、できる限りグループで議論をしてもらいたいと思います。</p>						
履修条件等	<p>履修しようとする方は、必ず初回の講義には出席してください。経営戦略論を併せて履修することが望ましい。</p>						
テキスト、参考書等	<p>とくに使用しない。各セクションごとに参考図書をあげます。</p>						
成績評価の方法	<p>講義中の課題提出を一定水準クリアしたヒトを対象に、定期試験を行います。よって、提出物の提出状況、提出物の評価、そして提起試験から総合的に判断して評価をします。</p>						
オフィスアワー	<p>講義日の 17:30～18:00。メールで事前にアポをとってもらえると助かります。メールアドレスは、ntaka@net.nagasaki-u.ac.jp です。</p>						
その他メッセージ	<p>基本的なマナーを守ること。講義中に「おしゃべり」に熱中したり、平気で遅刻してきたり、入退出を繰り返すような人は歓迎しません！</p>						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	<p>－セクション1－ イントロダクション イントロダクション</p>						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- 第 2 回 組織変革を迫る社会状況と変革する組織の方向性
- 第 3 回 旧型組織デザインの論理：合理性の非合理性
- 第 4 回 新型組織デザインの論理：弱さの強み
- 第 5 回 予備日（講義進行の調整）
ーセッション2ー
- 第 6 回 イノベーションの原理
- 第 7 回 組織学習：イノベーターの思考法の要件としてのリフレクション
- 第 8 回 組織文化の効果と制約
- 第 9 回 バイアスの自覚とブレークスルー
- 第 10 回 予備日
ーセッション3ー
- 第 11 回 組織の中の個人と変革型リーダーシップ
- 第 12 回 集団の功罪：成長の場としての協働
- 第 13 回 集団の功罪：排除と無責任の構造
- 第 14 回 予備日
- 第 15 回 まとめ

経営組織論の組織デザインの論理とその陥穽などを理解してもらおう。何が組織の形を決めるのか、逆に組織の形が何を規定するのか、何を規定しないのか、一度規定されたものを変えるのにはどうしたかいいのか、など、組織デザインの効果と弊害をお話します。

授業科目名 (英語名)	国際教育演習 (Seminar on International Economies)			担当教官名	井手啓二		
単位数	2単位	学期	前期	曜日・校時	金曜日 V校時	教室	本 503 教室
授業のねらい	現代の国際経済、国際関係についての基本的理解の獲得を目標とする。						
授業内容と方法	国際経済、国際関係に関するテキストを2冊程度講読する。参加者各人が分担報告して討論を行う。						
履修条件等							
テキスト、参考書等	(開講時までに生協にて購入のこと) (1) 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』(平凡社) (2) 2冊目のテキストは、開講後指示する。						
成績評価の方法	平常点と期末レポートによる。						
オフィスアワー	講義の前後の時間をあてる。						
その他メッセージ	上記のテキストのうち(1)は開講までに各自で生協にて購入しておくこと。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第1回	} テキストの講読						
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

--	--

授業科目名 (英語名)	教育職業論 (The Professionalism as a Teacher)			担当教官名	渡海陽		
単位数	2単位	学期	後期	曜日・校時	金曜日 V校時	教室	本101教室
授業のねらい	<p>「慎思録」貝原益軒より 教え導くことは、</p> <p>① 子弟門人に対しては、須らく事に随いて教誨し、 ② 過有れば則ち規戒すべし。 ③ 疎懶にして黙止す可からず。 ④ 此の如くなれば、則ち漸く益有るに庶からん。 ⑤ 人を教育するの道宜しく此の如くなるべし。</p> <p>教育に携わる者は、常に相手を直視する姿勢を崩さないで、熱心に根気強く、使命感に燃え、全体に奉仕する心構え、信頼され指導力のある教育専門職を目指す。</p>						
授業内容と方法	<p>教職員の多岐にわたる職務内容を、教育活動、特別活動、PTA活動、地域社会との連携など、職務に付随する業務まで学習します。</p> <p>講義形式。</p>						
履修条件等							
テキスト、参考書等	<p>1、平原春好著「教育と教育基準法」勁草書房 2、沼田裕之・加藤守通編著「文化史としての教育思想史」福村出版 3、朝日新聞社編「ほんとうの教育者はと問われて」朝日選書</p>						
成績評価の方法	試験。レポート。出席状況。						
オフィスアワー	時間の許す限り対応します。						
その他メッセージ	欠席する時は事前に連絡すること。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	「教育は人なり」学ぶことと教えるという仕事。教師の資格と身分。						
第 2 回	専門職としての教師。(聖職者・労働者)。教師という職業。						
第 3 回	授業を創る。教師の「力量」について。						
第 4 回	教師に求められる資質能力について。						
第 5 回	学校の組織と運営。						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 第 6 回 | 教職員の職務。校務分掌を中心として。 |
| 第 7 回 | 学級経営と特別活動。ホームルーム担任の心構え。 |
| 第 8 回 | 教師の地位と身分。待遇と勤務条件。福利厚生制度。 |
| 第 9 回 | 研修（初任者・中堅教師、管理職）、教育委員会、校内研修、自己研修。 |
| 第 10 回 | サービスの義務・制限・禁止事項。職務上と身分。 |
| 第 11 回 | 家庭・地域と学校との連携。 |
| 第 12 回 | 特別活動。望ましい集団活動とは。学校行事。 |
| 第 13 回 | 学校評議員制度。 |
| 第 14 回 | 不易と流行をおさえた教育。教師の社会性の涵養。 |
| 第 15 回 | 教師をめざす若者へ私の願い。“感動・感銘”そして“夢”を…。 |

授業科目名 (英語名)	商業教科教育法 (Student Teaching Methods of Business)			担当教官名	非常勤講師 中小路 弥太郎		
単位数	4単位	学期	前期	曜日・校時	水曜日 IV～V校時	教室	新101教室
授業のねらい	高等学校の商業科教師になるための資格を取得し、将来、教壇に立つことができるように、商業教育の基礎的な知識と技術を習得する。						
授業内容と方法	高等学校の商業教育に関する意義、歴史、目標、教科内容、指導計画、指導法、学習評価、さらに商業教育の現状と今日的な課題についても学習する。授業の形態は講義、学生の研究発表、討議である。						
履修条件等	高等学校の商業教育に興味関心をもっていることが望ましい。						
テキスト、参考書等	〈テキスト〉 文部省「高等学校学習指導要領解説 商業編」実教出版 小松 章「ビジネス基礎」一橋出版						
成績評価の方法	レポートおよび出席状況により評価する。						
オフィスアワー	質問などには、授業前後に応じたい。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	教育の心と商の心						
第 2 回	学習指導要領 (1)						
第 3 回	学習指導要領 (2)						
第 4 回	学習指導要領 (3)						
第 5 回	教育改革国民会議の内容						
第 6 回	教育基本法と教育勅語						
第 7 回	長崎県の高校教育改革						
第 8 回	商業教育の意義と目標						
第 9 回	科目「簿記」の指導計画						
第 10 回	科目「簿記」の効果的指導法 (1) (導入)						
第 11 回	" (2) (商品勘定の三分法)						
第 12 回	" (3) (手形取引の仕訳)						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 13 回	科目「簿記」の効果的指導法 (4) (決算)
第 14 回	科目「ビジネス基礎」の指導計画
第 15 回	科目「ビジネス基礎」の効果的指導法 (1) (商業の学習ガイダンス)
第 16 回	” (2) (ビジネスと流通活動)
第 17 回	” (3) (ビジネスと売買取引)
第 18 回	” (4) (外国人のコミュニケーション)
第 19 回	科目「情報処理」の指導計画
第 20 回	科目「課題研究」の指導計画
第 21 回	科目「総合実践」の指導計画
第 22 回	学習指導案の作成
第 23 回	教育課程表の研究
第 24 回	望ましい学習評価のあり方
第 25 回	長崎県商業教育の歴史 (1) (昭和時代)
第 26 回	” (2) (平成時代)
第 27 回	商業教育の現状
第 28 回	商業教育の課題と展望
第 29 回	総合学科と単位制高校
第 30 回	総まとめ

授業科目名 (英語名)	職業指導 (Vocational Guidance)			担当教官名	非常勤講師 森 孝 友		
単位数	4単位	学期	前期	曜日・校時	夏期集中	教室	
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校商業科の教師として必要な職業指導に関する基礎的な知識・技術を身につけ、生徒の進路指導に対処できるようにする。 ・職業指導は、生涯を通しての人生の生き方をも含む教育であることを理解させ、職業選択・職業適応がいかに大切であるかを考えさせる。 						
授業内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・職業および職業指導に対する考え方、職業指導の発展、職業指導の理論的基礎、学校現場での進路指導、個人理解、職業適性、進路情報にもとづく指導、進路相談、就職指導と進学指導、障害者の職業指導および教育改革に伴う進路指導について講義する。 						
履修条件等							
テキスト、参考書等							
成績評価の方法	試験と出席状況により評価する。						
オフィスアワー	特に設定しないが、質問などは随時応じる。						
その他メッセージ							
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回 第 2 回 第 3 回	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div> <p>第1章 職業指導とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業指導の必要性 2. 職業指導の定義 3. 職業指導と職業教育 4. 職業指導と生徒指導 </div> </div>						
第 4 回 第 5 回 第 6 回	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div> <p>第2章 職業指導の発展</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業指導の発展を支えた社会的要因 2. アメリカにおける職業指導の発展 3. 日本における職業指導の発展 </div> </div>						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

第 7 回		第 3 章 職業指導の理論的基準
第 8 回		1. 職業選択理論
第 9 回		2. 職業適応理論
第 10 回		3. 職業的発達理論 4. キャリア教育における職業的発達理論
第 11 回		第 4 章 学校における進路指導
第 12 回		1. 進路指導の全体計画
第 13 回		2. 進路指導の組織と運営 3. 進路指導の内容
		4. 進路指導の現状と方法
第 14 回		第 5 章 個人理解と職業適性
第 15 回		1. 個人理解の意義
第 16 回		2. 個人理解の内容
第 17 回		3. 個人理解の方法 4. 個人と職業に関する理解
第 18 回		第 6 章 職業理解と情報
第 19 回		1. 進路情報と意義
第 20 回		2. 進路情報の収集と活用
第 21 回		3. 職業理解 4. 教育訓練機関の理解
第 22 回		第 7 章 進路相談
第 23 回		1. 進路相談の意義と計画
第 24 回		2. 進路相談の技術 3. 進路相談の方法とすすめ方
第 25 回		第 8 章 就職指導と進学指導
第 26 回		1. 就職指導
第 27 回		2. 進学指導
第 28 回		3. 職業適性とその指導
第 29 回		第 9 章 障害者への職業指導
第 30 回		第 10 章 教育改革に伴う進路指導
		1. 教育改革の動向と進路指導の改善
		2. 学習指導要領の改善と要点
		3. 新しい学習指導要領のねらい
		4. 教育の構造改革

授業科目名 (英語名)	教育方法・技術論 (Educational Methods and Technology)		担当教官名	非常勤講師 渡海 陽			
単位数	2単位	学期	後期	曜日・校時	金曜日 VI校時	教室	本101教室
授業のねらい	<p>「教師の仕事は授業につきる」。授業の質の向上は教師の在り方にかかっています。授業をおこなうことは、教師の教育観・授業観によって決まるものであり、教育実践の場で教師が</p> <p>① 自信をもって教えることに責任をもつ。 ② 常に探求し続ける意識をもつ。 ③ 授業の構想と計画性を体系的に実践する能力を養う。</p> <p>ことの修得を目指します。</p>						
授業内容と方法	<p>講義形式。</p> <p>年間指導計画に基づいて、学習指導目標を設定し、教師は授業設計には慎重な計画性がなければならない。</p> <p>教育課程の基本を理解して、学習指導、学習内容、教材の選択、指導技術、情報技術、機器活用等を通して生徒の個々に応じた動機づけ、理解度、評価が展開されてゆくことを講義したいと思います。</p>						
履修条件等							
テキスト、参考書等	<p>1、高等学校学習指導要領解説（商業編）文部科学省。 2、林 竹二著「教えるということ」国土社。</p>						
成績評価の方法	レポート提出、出席状況。						
オフィスアワー	時間の許す限り対応します。						
その他メッセージ	欠席する時は必ず事前に連絡すること。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	指導力不足教師、教師に求められる資質能力。						
第 2 回	教育課程と指導計画。教育目標。						
第 3 回	学習指導要領の性格。						
第 4 回	学習指導案の作成・意義・目的・内容・形式。生かし方。						
第 5 回	学習集団の組織・運営。						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 第 6 回 | 授業の技術、指導方法の多様性。 |
| 第 7 回 | 知的好奇心の喚起。動機づける。 |
| 第 8 回 | 授業展開と教師の力量。授業における「ゆさぶり」とは何か。 |
| 第 9 回 | 教科書・補助教材の利用。 |
| 第 10 回 | 授業分析と評価（評価の種類と目的）。 |
| 第 11 回 | 教育機器・技術の活用。授業と教育メディア。 |
| 第 12 回 | 学習障害（LD）の理解。 |
| 第 13 回 | 校務運営における公文書。文書起案（校内・校外）、文書取扱い。 |
| 第 14 回 | 教科指導、教科学習に望まれること。 |
| 第 15 回 | 教師自身が、「己れの授業を創る」努力を常に惜しまない。 |

授業科目名 (英語名)	教育実地研究 I (The Practical Study of Education)			担当教官名	非常勤講師 渡海 陽		
単位数	1単位	学期	通年	曜日・校時	水曜日 IV～V校時	教室	本101教室
授業のねらい	<p>学んできた教育理論を学校現場で教育実習という形で実践・研究・体験します。教育実習は、自己を変革する良い機会であることを認識して、教える立場から教科指導・生徒理解・学校の経営・管理・サービスなどの実践を体験します。教育実習を通して専門知識と指導技術の基礎を身につけることを目指します。</p>						
授業内容と方法	<p>「研究授業」と講義。「研究授業」は各人に学習指導案を作成させる。指導案にしたがって模擬授業を実施。観察実習・参加実習・授業実習・研究協議会を通して、次の事項を具体的に指導します。</p> <p>①授業をみる ②教材研究 ③学習指導案の書き方 ④授業展開 ⑤指名・発問・板書の仕方 ⑥話し方 ⑦教材・教具の活用法 ⑧机間巡視 ⑨指導教官との連携</p>						
履修条件等							
テキスト、参考書等	<p>1、鹿嶋研之助著「ビジネス基礎」暁出版 2、片岡寛・木綿良行著「Foundation of Business」実教出版 3、黒沢清著「工業簿記」一橋出版 4、江村稔著「精選簿記」上・下 大原出版 5、林田哲彌著「新会計」大原出版 6、中澤興起著「情報処理 21」実教出版</p>						
成績評価の方法	研究授業とレポート（学習指導案他）、出席状況。						
オフィスアワー	時間の許す限り対応します。						
その他メッセージ	欠席する時は必ず事前に連絡すること。						
授 業 内 容 (重要項目・キーワード)							
第 1 回	教育公務員としてのサービス管理。実習の準備。						
第 2 回	教育実習の意義と目的。(実習生を受け入れる学校は、必ずしも実習生を歓迎しないことを理解させる。) 真剣に取り組む姿勢。実習の心得。						
第 3 回	1、研究授業、2、教師の授業をみる（見・看・診・観・監・覧・鑑・覗）						

授 業 内 容 (重要項目・キーワード)

- | | |
|--------|--|
| 第 4 回 | 1、研究授業、2、教育課程と年間指導計画案。 |
| 第 5 回 | 1、研究授業、2、学習指導案の作成。 |
| 第 6 回 | 1、研究授業、2、教材研究・資料・副教材・教具の活用法。 |
| 第 7 回 | 1、研究授業、2、授業の形態（展開、話し方）。評価。 |
| 第 8 回 | 1、研究授業、2、観察授業・参加（学級経営・清掃・特別活動・学校行事・その他）。 |
| 第 9 回 | 1、研究授業、2、指名・発問・板書の仕方、机間巡視。 |
| 第 10 回 | 1、研究授業、2、指導教官と密接に連携（報告・連絡・相談）。 |
| 第 11 回 | 1、研究授業、2、教育実習録（実習日誌）、諸帳簿の作成。 |
| 第 12 回 | 1、研究授業、2、研究協議会、実習全体の統括。 |
| 第 13 回 | 1、研究授業、2、地域社会との連携について。地域の人になること。 |
| 第 14 回 | 1、研究授業、2、教育実習で得たもの。実習校への礼状。 |
| 第 15 回 | 今日の教育問題。教師としての責任と自信をもとう私の願い。 |

